

G空間EXPO2023 開催報告書

令和6年2月
G空間EXPO運営協議会

目次

1. 開催概要	1
2. 基調講演・パネルディスカッション	7
3. 地理空間情報フォーラム	10
4. Geoアクティビティコンテスト	31
5. 講演・シンポジウム	42
6. (同時開催) イチBizアワード	51
7. 広報	55
[参考] アンケート結果	66
〃 開催実績	73

1. 開催概要

主催： G空間EXPO運営協議会

開催概要

■ 開催概要

1. 名称 G空間EXPO2023 Geospatial EXPO2023 Japan
2. 開催方式 実地開催及びオンライン開催
3. 期間【実地開催】 2023年(令和5年)11月7日(火)・8日(水) 10:00～17:00
【オンライン開催】 11月1日(水)10:00 ～ 12月10日(日)17:00
4. 会場 東京都立産業貿易センター浜松町館（東京都港区海岸1-7-1）
5. 対象 児童・生徒から社会人まで幅広い層 / 入場料【実地】：無料
6. 主催 G空間EXPO運営協議会
公益社団法人日本測量協会 一般社団法人全国測量設計業協会連合会
一般社団法人日本測量機器工業会 公益財団法人日本測量調査技術協会
一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構
一般財団法人日本情報経済社会推進協会
一般社団法人地理情報システム学会
内閣官房 内閣府宇宙開発戦略推進事務局
国土交通省政策統括官付 国土交通省国土地理院
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
7. 来場数・アクセス数
【実地開催】 来場数 1,701名
【オンライン開催】 アクセス数 37,398件（934件／日）

統一テーマ・ロゴ・キービジュアル

■統一テーマ

「地理空間情報科学で未来をつくる」

G空間EXPO開催の根幹的な意義を示す標語。2013(平成25)年度より掲揚。

■年次テーマ

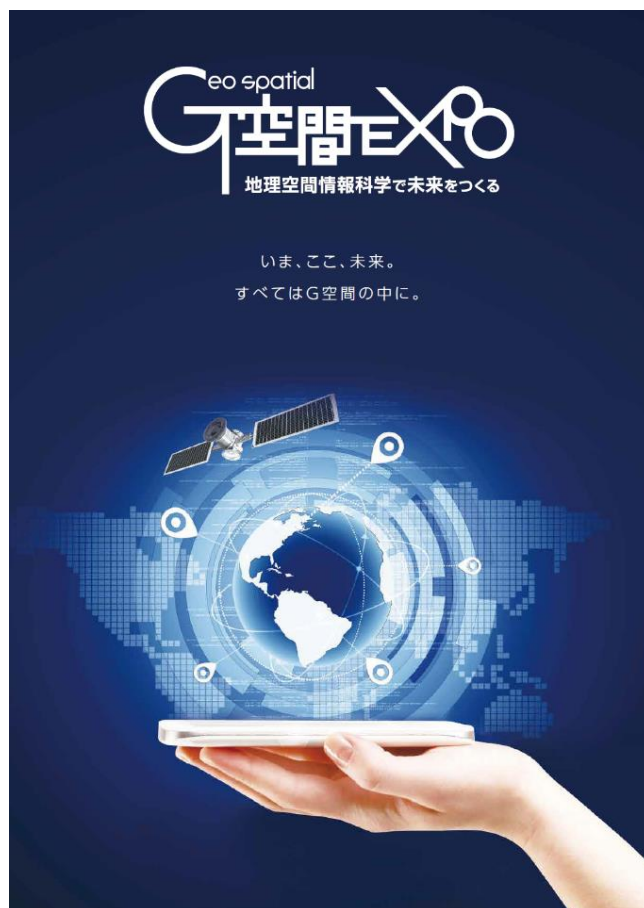
「いま、ここ、未来。すべてはG空間の中に。」

統一テーマを踏まえつつ社会の流れや移り変わりに沿う時宜的な標語。一年度限り。

■タイトルロゴ



■キービジュアル



開催構成（イベント概要、フロアマップ）

■ G空間EXPO基調講演・パネルディスカッション

産・学・官それぞれから、G空間情報にかかる政府の取組、最新の動向等をテーマに基調講演、トークセッションをメインステージにて実施。合わせて、基調講演、トークセッションの様子をライブ配信するとともに、オンライン開催期間中映像を配信。

主催：G空間EXPO運営協議会

■ 地理空間情報フォーラム

企業、団体、機関等の展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介。高度で専門的な展示を通じ、G空間社会をもっと知りたい方々、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応。

主催：測量関係4団体（公益社団法人日本測量協会、一般社団法人全国測量設計業協会連合会、一般社団法人日本測量機器工業会、公益財団法人日本測量調査技術協会）

■ Geoアクティビティコンテスト

公募で選ばれた地方公共団体・教育関係者・学生・NPO・民間企業等が、先進的な取組、独創的なアイデア、新たなサービス、ユニークな製品、画期的な技術等を展示。参加者や来場者が出会い、新たなアイデアが生まれる場を提供。

主催：国土交通省国土地理院

■ 講演・シンポジウム（オンラインのみ）

G空間社会を支える「みちびき」をはじめとした測位技術の最新情報、関連する研究の成果、製品化の情報、業界や新技術の動向について講演・シンポジウム形式で発信。

主催：一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構

■ (同時開催)イチBizアワード

既存分野にとらわれない斬新なアイデア・スキルを持つ人材の発掘とアイデアの事業化を目指し、地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」を開催した。

主催：内閣官房地理空間情報活用推進室



【実地開催】

開会式（オープニングセレモニー）

- 日時 令和5年11月7日（火）10:00～10:20
- 会場 5F展示室メインステージ
- 内容 主催者挨拶（10:00～）
テープカット（10:15～）

【主催者挨拶】

国土交通省国土交通副大臣 國場 幸之助 〔写真左〕
（大木 章一国土地理院長による代読）
公益社団法人日本測量協会会長 清水 英範 〔中〕
一般社団法人地理情報システム学会会長 巖 網林 〔右〕



【テープカット】



〔写真左から〕

一般社団法人地理情報システム学会会長
公益社団法人日本測量協会会長
国土交通省国土地理院長
国土交通省政策統括官
内閣府宇宙開発戦略推進事務局長

巖 網林
清水 英範
大木 章一
小善 真司
風木 淳

配信画面（メインページ）

G空間EXPO公式HP (<http://www.g-expo.jp>) をオンライン会場とし、次のように構成・表示した。



G空間EXPO2023は11月に開催決定

会場開催	オンライン開催
2023年11月7日（火）・8日（水）	2023年11月1日（水）～12月10日（日）
現地開催終了いたしました。 なお基調講演及びパネルディスカッションは 引き続きアーカイブ配信によりご視聴いただけます。	オンライン会場はこちらから 地理空間情報フォーラム Geoアクティビティコンテスト 講演・シンポジウム
プログラム・チラシはこちら プログラム（PDF） チラシ（PDF）	

■ オンライン会場

コンテンツ配信画面へ遷移するリンクバナーを配列

[地理空間情報フォーラム](#)

[Geoアクティビティコンテスト](#)

[講演・シンポジウム](#)

■ 「基調講演・パネルディスカッション」

日時、タイトル、出演者を掲載。「アーカイブ配信を見る」を押すとYouTubeサイトへ飛ぶ仕様。

基調講演・パネルディスカッション

11/7（火） 13:00～14:00
会場：5階メインステージ

基調講演
地図を楽しむ
～災害時には必ず役立つ～
地図大使・俳優・気象予報士
石原 良純 氏

[アーカイブ配信を見る](#)

11/8（水） 10:00～11:30
会場：5階メインステージ

パネルディスカッション
人流データの利活用手法、ユースケースの創出
東京都大学 建築都市デザイン学部 都市工学科 准教授
コーディネーター
秋山 祐樹 氏
LocationMind株式会社
Product Manager/Pop Div（エックスポップディビジョン）
パネリスト
宮澤 聡 氏
株式会社GEOTRA
代表取締役社長CEO
パネリスト
陣内 寛大 氏
国土交通省政策推進官付
情報活用推進課課長補佐
パネリスト
武林 雅衛 氏

[アーカイブ配信を見る](#)

2. 基調講演、パネルディスカッション

主催：G空間EXPO運営協議会

基調講演、パネルディスカッション

■ 基調講演、パネルディスカッション

第4期地理空間情報活用推進基本計画に基づき、産・学・官それぞれから、G空間情報にかかる政府の取組、最新の動向等をテーマに基調講演、パネルディスカッションを会場メインステージにて実施。合わせて講演当日のライブ配信及びオンライン開催中にオンデマンド配信を実施。

〔 アクセス数 ライブ・オンデマンド 計795 件 〕

■ 基調講演

○石原 良純 氏

地図大使・俳優・気象予報士

日 時：令和5年11月7日（火）13時～14時

テーマ：地図を楽しむ ～災害時には必ず役立つ～

■ パネルディスカッション

○秋山 祐樹氏

東京都市大学建築都市デザイン学部都市工学科 准教授

○宮澤 聡氏 LocationMind株式会社 Manager, xPop Div

○陣内 寛大氏 株式会社GEOTRA 代表取締役社長

○武林 雅衛氏 国土交通省政策統括官付情報活用推進課課長補佐

日 時：令和5年11月8日（水）10時～11時30分

テーマ：人流データの利活用手法、ユースケースの創出

基調講演、パネルディスカッション

■ 基調講演、パネルディスカッションの様子

基調講演

石原良純氏
(地図大使・俳優・気象予報士)



パネルディスカッション

<コーディネータ>
秋山祐樹氏
(東京都市大学建築都市
デザイン学部都市工学科 准教授)



<パネリスト>

宮澤聡氏
(LocationMind株式会社
Manager, xPop Div)

陣内寛大氏
(株式会社GEOTRA
代表取締役社長)

武林雅衛氏
(国土交通省政策統括官付
情報活用推進課課長補佐)



3. 地理空間情報フォーラム

主催：（公社）日本測量協会
（一社）全国測量設計業協会連合会
（一社）日本測量機器工業会
（公財）日本測量調査技術協会

地理空間情報フォーラム

企業・団体・機関の動画・写真等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介しました。出展各者による高度で専門的な展示を通じ、G空間社会（地理空間情報高度活用社会）についてもっと知りたいといった一般の方々や、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応します。

名称 地理空間情報フォーラム2023

会期 オンライン開催：2023年11月1日(水)～12月10日(日)
実地開催：2023年11月7日(火)～11月8日(水)

会場 オンライン開催：G空間EXPO2023WEBサイト内
実地開催：東京ポートシティ竹芝（東京都立産業貿易センター 浜松町館5F）

主催 公益社団法人 日本測量協会
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
一般社団法人 日本測量機器工業会
公益財団法人 日本測量調査技術協会

■ 出展者一覧

小間No.	出展者	タイトル
1	株式会社プログウォッチャー	人流ビッグデータを用いた、スマート・プランニングの実践 ～パーソントリップデータのご紹介～
2	株式会社GEOTRA	生活者ひとりひとりの移動がわかる人流データで都市人流のデジタルツインを実現
3	イチBizアワード（主催：内閣官房）	地理空間情報を用いたビジネスアイデアコンテスト
4	国土交通省	地理空間情報と「建築・都市のDX」の連携による利活用的高度化
5	株式会社Geotrans	GeotransのAI技術：空間情報からのデータ生成による効率化支援
6	株式会社サテライトイメージマーケティング	Airbus DS社 衛星画像関連製品のご紹介(SPOT・Pléiades Neo他)
7	一般財団法人日本地図センター	地図を見る・学ぶ・楽しむ
8	G空間情報センター	スマートシティの先へ ～G空間情報の活用による課題解決支援～
9	国土交通省 国土地理院	国土地理院の使命！ ～国土の全てを測る・描く・守る・伝える～
10	内閣府宇宙開発戦略推進事務局 / 準天頂衛星システムサービス株式会社	みちびきショーケース
11	株式会社パスコ	地球をはかり、未来を創る
12	株式会社ホロラボ	XR技術で具現化する都市のデジタルツインプラットフォーム torinome（トライノーム）
13	アジア航測株式会社	最先端のセンシング技術で未来を創る
14	ジオサーフ株式会社	GNSS技術の未来を切り拓く：ComNav Technologyとのパートナーシップ
15	MetCom株式会社	GPSやみちびきを補完する地上波測位システムで地理空間情報をより豊かに
16	朝日航洋株式会社	G空間データを、もっと身近に、もっと手軽に
17	国際航業株式会社	空間情報で未来に引き継ぐ世界をつくる
18	CHCNAV(株式会社快適空間FC)	現場作業の効率化を図る最新の3次元測量機器のご紹介
19	総務省 統計局	地図で見る統計（jSTATMAP）【総務省統計局】
20	ESRIジャパン株式会社	地理空間データの魅力を3Dで体感する
21	国立研究開発法人産業技術総合研究所	G空間情報解析プラットフォーム
22	リーグルジャパン株式会社	ハイエンドモデル RIEGLレーザースキャナーによる高密度な3Dデータ
23	株式会社Geolonia	ウェブ、クラウド、地理空間情報技術、オープンソースの力で持続可能社会の実現に貢献するGeoloniaのサービス紹介
24	Precisely	Preciselyグローバルデータコレクション
25	株式会社MIERUNE	QGIS・webGISを軸としたデータ可視化と活用
26	レフィクシア株式会社	m精度のGNSS端末と座標活用により現場をサポート
27	一般社団法人 日本測量機器工業会	日本測量機器工業会のご紹介
28	公益社団法人日本測量協会	日本測量協会の業務紹介
29	「測量の日」実行委員会	「測量の日」のご紹介と子供も大人も楽しめるクイズコーナー
30	図書コーナー	関連図書の展示及び販売

■ 出展概要

小 間 No.	出展者	タイトル	説明
1	株式会社プログウォッチャー	人流ビッグデータを用いた、スマート・プランニングの実践 ～パーソントリップデータのご紹介～	交通インフラ整備・防災・まちづくりを推進する上で、人の移動実態を捉えることは非常に重要です。 約50年前から、こうした人の動きを把握する代表的な調査方法として、パーソントリップ調査がありますが、これは、アンケートによって、「ある出発地点からある目的地まで人が「いつ」「どのように」「どれくらい（人数や量）」「なぜ」移動したのかを把握する調査です。 非常に協力的なデータですが、アナログな調査手法の為、莫大な調査コストがかかる為、概ね10年に一度程度の実施頻度というのが実態です。 これを解決するのが、弊社の提供するパーソントリップデータとなります。事例も含めてご紹介させていただきます。
2	株式会社GEOTRA	生活者ひとりひとりの移動がわかる人流データで都市人流のデジタルツインを実現	GEOTRAは「データの力で社会を前に進める」をミッションとし、三井物産とKDDIの合併会社として設立されました。当社が提供するGEOTRA Activity Dataは、スマートフォンのGPS位置情報と機械学習技術を掛け合わせて生成され、プライバシーを保護しながら、生活者ひとりひとりの導線を把握いただけるデータです。高粒度人流データを軸とした分析サービスを街づくりや都市インフラの開発・公共交通の再整備や観光活性など、多岐にわたるお客さまにご提供しています。
3	イチBizアワード（主催：内閣官房）	地理空間情報を用いたビジネスアイデアコンテスト	2023年度に始まったイチBizアワードは、地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテストです。我々の生活や社会をより良くするためのツールとして地理空間情報の役割は飛躍的に高まっています。リアルタイムデータや3次元データの活用、様々なデータとの組合せによる新たな価値創出が進んでおり、その可能性は無限大です。 しかし、この新しい領域でのサービス・製品・技術を創出するためには、地理空間情報を活用できる人材の育成が不可欠となります。地理空間情報活用を推進する内閣官房は、業種・職種の垣根を越えて活躍する人材の育成、地理空間情報分野への異業種の人材の呼び込み、多様な人材が連携して事業化を推進するコミュニティの形成を実現すべく、『イチBizアワード』を企画しました。
4	国土交通省	地理空間情報と「建築・都市のDX」の連携による利活用の高度化	国土交通省では、第4期地理空間情報活用推進基本計画に基づきG空間社会の実装に向け、G空間情報の利活用の加速化に取り組んでいる。利活用の加速化に当たっては、オープンデータ化の推進や最新の衛星技術・測量技術を用いた情報の精緻化により、G空間情報のより一層の整備を進めるとともに、G空間情報を活用するための基盤整備も併せて進めていく必要がある。 そこで、G空間情報の整備・活用や高精細なデジタルツインである「建築・都市のDX」に係る国土交通省の最新の取組やこれらを活用したユースケースを紹介する。

■ 出展概要

小 間 No.	出展者	タイトル	説明
5	株式会社Geotrans	GeotransのAI技術：空間情報からのデータ生成による効率化支援	Geotrans（ジオトランス）では、航空機・衛星・ドローン等による空撮データをAIにより自動生成するサービス群を展開しております。 行政計画分野の現況データを自動生成するサービスとして、固定資産税に関する土地・家屋判読AI、森林管理・植生分類に関する植生判読AI、農業政策に関する農地判読AI、空撮レーザー測量時に必要な水部抽出AI、といった各サービスを提供し、測量・建設コンサルタントの業務効率化を支援し、確実な費用対効果を提供いたします。
6	株式会社サテライトイメージマーケティング	Airbus DS社 衛星画像関連製品のご紹介(SPOT・Pléiades Neo他)	株式会社サテライトイメージマーケティング(SIM)は、フランス Airbus Defence and Space(Airbus DS社)が提供する衛星画像とその関連製品を日本国内で販売する代理店です。従来弊社が取り扱っておりましたSPOT衛星(1.5m分解能)、Pléiades衛星(50cm分解能)のラインナップに、30cmの解像度を備え、同一2基のコンステレーションで構成されるPléiades Neo衛星が新たに加わりました。毎日アップデートされるこれらの衛星画像は、いずれもWeb上、OneAtlasのプラットフォームで実際のデータと同じ解像度でのストリーミング・閲覧、ダウンロードが可能となっております。
7	一般財団法人日本地図センター	地図を見る・学ぶ・愉しむ！ 一般財団法人日本地図センター	一般財団法人日本地図センターは、国内外の各種地図、空中写真等を広く収集して体系的に整備保管し、総合的な地図情報サービスを行なうとともに、国土地理院の地図の刊行、地図に関する調査研究等を行うために、1972（昭和47）年に設立され、本年で52年目になります。 地図を見る・学ぶ・愉しむをコンセプトに、地図や地理空間情報を活用して、私たちの暮らしがより実り多いものとなるように地図や地理空間情報の収集、提供、調査研究、普及活動などを行っています。
8	G空間情報センター	スマートシティの先へ ～G空間情報を活用した課題解決支援～	G空間情報センターは、様々な主体が様々な目的で整備している地理空間情報（＝G空間情報）の有効活用と流通促進、また社会課題を解決するアクターの後方支援を行うためのデータ流通支援プラットフォームです。当センターでは、利用者が必要となるG空間情報や関連する情報がワンストップで検索入手できるサービスを提供するほか、研究開発やデータキュレーションなど、イノベーション創出に向けた事業を展開しています。当センターは平成24年3月に政府で閣議決定された地理空間情報活用推進基本計画に基づき設立され、一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が運用を行っています。

■ 出展概要

小間 No.	出展者	タイトル	説明
9	国土交通省 国土地理院	国土地理院の使命！ ～国土の全てを測る・描く・守る・伝える～	国土地理院は、我が国唯一の国家地図作成機関です。国土地理院の使命、それは、正確な位置と新鮮な地図を国民に届けることです。明治以来 150 年以上にわたり、国土を測り、その姿を地図に表現してきました。もちろん離島など到達困難な地域もその対象で、ダイナミックな変化を捉えてきました。これらは、国土の明示や適切な管理、防災対策等に役立っています。また、南極大陸にも第 1 次南極地域観測隊（1956 年）以来、毎回の観測隊に職員を連続して派遣し、科学的・基礎的情報の整備に貢献しています。 今回は、これら到達困難な地域の測量・地図作成についてご紹介するほか、最近のトピック等についてもご紹介いたします。
10	内閣府宇宙開発戦略推進事務局/ 準天頂衛星システムサービス株式会社	みちびきショーケース	みちびき（準天頂衛星システム）とは、日本版 GPS と呼ばれることもある日本独自の衛星測位システムです。みちびきは、衛星測位システムとして有名な米国の GPS と一体で利用でき、安定した高精度測位を行うことが可能であることから地理空間情報を高度に活用した位置情報ビジネスの発展に寄与しています。現在は 4 機体制で衛星測位サービスを提供するとともに、独自サービスとして cm 級の高精度測位補強サービスや防災向けのメッセージサービスなどを提供しています。今後は 7 機体制の構築を目指し、信号認証サービスやアジア・オセアニア地域でも利用可能な高精度測位補強サービスなどの新たなサービスの提供も予定しています。
11	株式会社パスコ	地球をはかり、未来を創る	パスコは、最先端の空間情報技術により社会のあらゆる課題を解決しています。パスコブースでは、「地球をはかり、未来を創る」と題し、以下の内容をご紹介します。 ■モニタリング ・衛星データの利活用「衛星モニタリング」 ・一度の走行で道路空間データを一挙に取得「Real Dimension」 ・地上＋水底の 3 次元地形を一気に取得「TDOT 3 GREEN」 ■ 3D 活用 ・3次元ビジュアライゼーションソフトウェア「Skyline」シリーズ ・3D都市モデルの整備・オープンデータ化プロジェクト「Project PLATEAU」 ■インフラDX ・橋梁の変位を365日監視するIoTインフラ遠隔監視サービス「Infra Eye」 ・高精度 3 次元データの活用で、道路管理の効率化を実現「PADMS-Net」 ■since1953 今年で創業70周年を迎えるパスコの社会的使命「災害緊急撮影」

■ 出展概要

小 間 No.	出展者	タイトル	説明
12	株式会社ホロラボ	XR技術で具現化する都市のデジタルツインプラットフォーム torinome (トライノーム)	torinome(トライノーム)はホロラボが開発した、XR技術を活用した都市のデジタルツインプラットフォームです。Project PLATEAUの3D都市モデルはもちろん、多様な形式のGIS、画像、動画、3Dモデルを3D地球儀上に配置し、現実世界とリンクして可視化、共有ができるシステムです。企業や自治体が蓄積している様々なデータを、主軸となるWebアプリケーション【torinome】と、現実世界に重畳する【torinome AR】、カードを使って都市計画や建築計画を具現化できるツール【torinome Planner】を組み合わせることで、都市計画や建築計画などに活用することができます。
13	アジア航測株式会社	最先端のセンシング技術で未来を創る	アジア航測は、測量や地図作成技術を基盤とし、最先端のセンシング機材を積極的に導入し培ってきた専門技術により、災害時や平常時など様々な場面に適した機材を用い、より正確でスピーディな計測を実現します。 地理空間情報の専門家集団として、急速に変化する社会の動向を的確にとらえ、関連する情報の収集・解析・事業プラン策定まで一貫したサービスの提供を通じ、お客様のニーズに合わせた適切なサービスを提供します。私たちは、最先端の計測・解析・情報共有技術を、必要なタイミングで市場に投入できるよう、先進技術の研究を続けています。
14	ジオサーフ株式会社	GNSS技術の未来を切り拓く： ComNav Technologyとのパートナーシップ	G空間EXPO2023において、私たちはGNSS技術の未来を拓くための最新技術を展示します。2023年6月に提携したComNav Technology社との協力により、革新的なGNSS製品を展示し、その可能性を探ります。ComNavの製品は高精度で信頼性の高い位置情報を提供し、さまざまな産業分野に革命をもたらします 高精度GNSSテクノロジー：ComNavの製品紹介を通じて、高い精度での位置決めの重要性を強調します。 産業への応用：GNSS技術が農業、測量、自動運転車両などの産業にどのように貢献するかを示し、未来の展望について示します 持続可能性への貢献：GNSS技術が環境保護や持続可能な開発に与える影響について考察し、持続可能な未来への貢献を探索します。 私たちの出展は、GNSS技術の進歩とその多様な応用分野に焦点を当て、ComNav Technology社との協力を通じて未来を切り拓く道を示します。
15	MetCom株式会社	GPSやみちびきを補完する地上波測位システムで地理空間情報をより豊かに	地理空間情報の技術的基盤となる二本柱は、(1)位置を把握するための衛星測位技術、(2)様々な地理空間情報を活用するための地理情報システム（GIS）、とされています。この(1)についてGPSやみちびきなど「衛星測位」以外の測位システムを加えることにより、地理空間情報の可用性が向上し、そして実現サービスの幅が広がります。 MetComが提供するの、「まち全体」を対象として、屋内外シームレスな3次元測位を可能とする、地上波方式の測位システムです。衛星測位システムの構造的な3大課題である (1)屋内・地下、(2)高さ、(3)セキュリティについて課題解決するので、「位置を知る手段」をより強固なものとします。

■ 出展概要

小間 No.	出展者	タイトル	説明
16	朝日航洋株式会社	G空間データを、 もっと身近に、 もっと手軽に	朝日航洋は、ヘリコプターとビジネスジェットを中心とした航空サービスや、自治体や防災のための地図情報を中心とした空間情報サービスを展開しています。 今回は、G空間データを手軽に活用するための製品と関連サービスをご紹介します。 ■GravisCore GEOソリューションズと朝日航洋が共同開発したCADシステムです。 3次元点群データのフィルタリング機能やグラウンドデータ作成機能等を標準装備しつつも価格を抑えた製品です。 ■QGIS 朝日航洋は、オープンソースソフトウェアQGISの支援メンバーです。 QGISの普及のため、実際に操作して学べるハンズオン講座の開催や、データを利活用する人材育成のサポートを行っております
17	国際航業株式会社	空間情報で未来 に引き継ぐ世界 をつくる	国際航業は、ミッション「空間情報で未来に引き継ぐ世界をつくる」を掲げ、3DやAIなどの先端技術を活用し、国土保全やまちづくりに関わる「計測・解析・利活用」のトータルソリューションを提供しています。今回のG空間EXPO/地理空間情報フォーラムでは、当社も参画している国土交通省のPLATEAU事業をはじめとする3D都市モデルの構築・利活用や、GNSS（全球測位衛星システム）を活用した地盤の変位計測から活用まで、G空間DXを先導する各種サービスを幅広くご紹介いたします。
18	CHCNAV(株式会社 快適空間FC)	現場作業の効率 化を図る最新の3 次元測量機器の ご紹介	CHCNAVが独自に開発した新世代の長距離・高精度・高精細なLiDARシステムです。高い適用性と安定した計測により、再現性の高い3次元データを構築します。地図情報レベル500地形図、数値地形図、河川、道路、電力、鉱山など3次元データを必要とする各分野に適用します。 また、カメラ、IMU搭載型のGNSSアンテナ“i93”は、ビジュアルサーベイ、連続観測、ARなど様々な機能を活用し計測をよりスマートに実施する事が可能な商品となっております。高品質低価格を実現したこれら最新機器を是非この機会にご覧になってください。
19	総務省 統計局	地図で見る統計 (jSTATMAP) 【総務省統計 局】	jSTAT MAPは、総務省統計局が整備する地理情報システムです。統計地図の作成や、利用者のニーズに沿った地域分析が可能となるようなさまざまな機能を提供しています。簡単な操作で、初めてでも使いやすく、都道府県、市区町村、小地域（町丁・字）、メッシュ毎の統計の結果を地図上に表示するなど、『視覚的』に統計データを把握することができ、防災、施設整備、市場分析等、詳細な計画立案に役立つ基本的な分析を行うことが可能です。

■ 出展概要

小間 No.	出展者	タイトル	説明
20	ESRIジャパン株式会社	地理空間データの魅力を3Dで体感する	地図は私達を取り巻く全てのものを体系づけ、理解させてくれます。 インターネットが社会基盤となり、クラウドコンピューティングを始めとするIT社会において、地図はあらゆるシーンで利用され、GIS（Geographic Information System：地理情報システム）は必須のツールとして、技術も市場も大きく成長しております。特に 3D による表現は、2D では表現しきれなかったデータの傾向、空間的な関係性を可視化できます。 ESRIジャパンは、Esri（米国）製品の総販売代理店として、GISプラットフォーム「ArcGIS」を提供し、グローバルな GISコミュニティの成長を支援しながら、社会に貢献しています。
21	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	G空間情報解析プラットフォーム	産業技術総合研究所で研究を進めている「人やモビリティ、ロボットの『移動』」に着目したG空間に関する研究開発事例を紹介します。特に、（１）大規模な移動体データ管理・利活用、（２）大規模人流解析、（３）車輪型移動体向け自律航法技術、（４）高精度マーカによる測位、（５）自律移動ロボットによる人・環境理解など、基礎的な研究から応用的な研究までを幅広く紹介します。また自律移動ロボットが会場内を動き回ります。
22	リーグルジャパン株式会社	ハイエンドモデル RIEGLレーザースキャナーによる高密度な3Dデータ	レーザースキャナーのパイオニアRIEGL社の 航空レーザー、UAVレーザー、MMS、地上型レーザー、各カテゴリにおける最新機種、最新情報をご紹介します。 航空レーザー、UAVレーザー、地上型レーザーの新製品は、全てが最大毎秒200万発以上の発射レートになりました。 これまで以上に、高密度な3次元空間情報が取得可能となります。 地上型レーザースキャナー 新製品「RIEGL VZ-600i」は、これまでのTLS製品よりも、高速化・軽量化を実現。 10m先6mm解像度をわずか30秒、レーザー & RGB同時取得の比類なきTLSです。
23	株式会社Geolonia	ウェブ、クラウド、地理空間情報技術、オープンソースの力で持続可能社会の実現に貢献するGeoloniaのサービス紹介	Geolonia は、位置情報基盤を通じて、社会が抱える様々な課題を解決できる企業を目指しています。IoT、スマートシティなど、国、自治体、企業のDXが進むにつれて重要な「地図」「地理空間情報」「ロケーションデータ」の分野で、ウェブ地図提供事業、位置情報開発支援事業、ロケーションプラットフォーム事業を展開しています。「地理空間情報の先進的な取り組みへの参画経験の強み」「公共領域に関する理解」「関連技術に関する理解、発明・開発力」を用いて、空間情報活用に向けた開発を推進します

■ 出展概要

小間 No.	出展者	タイトル	説明
24	Precisely	Preciselyグローバルデータコレクション	「より良い決断は、より良いデータから」を信念に、Preciselyは弊社製品あるいは他社製品でも使用可能な240カ国以上の世界最大のグローバルデータを提供しています。レアな国のデータもたくさん保有しています。データ製品のポートフォリオは、以下のカテゴリーに集約されています。 - 住所 (グローバルジオコード) - 行政界、郵便番号などの標準境界 - ライフスタイル/デモグラフィックス/人口統計 - POI (Point of Interest) - 道路ネットワーク
25	株式会社 MIERUNE	最先端の位置情報技術を追求し、多様なニーズに応える技術集団「MIERUNE」	「MIERUNE」は位置情報に関する豊富な技術や実績を持つソリューションカンパニーです。 [事業内容] ITや地理空間情報を活用した業務改善・開発のコンサルティング ITや地理空間情報に関する研修・講演会の企画運営 Webサイト・Webサービス・ソフトウェアの企画・研究・開発 データベースの企画構築解析支援やコンサルティング [得意分野] QGIS：MIERUNEは、国内では珍しいQGIS専門チームを組織しています WebGIS：最新のアーキテクチャでWebGIS構築支援を承ります 3D:MIERUNEはPLATEAUプロジェクトパートナーです。データ変換ツール開発など3Dも得意です。
26	レフィクシア株式会社	cm精度のGNSS端末と座標活用により現場をサポート	cm精度の位置情報を取得できる高精度GPS端末とソフトウェアを開発しています。 例えば、インフラ・高速道路会社様向けサービス。従来GPSでは10mの誤差が生じるため、道路の修繕箇所をGPSで測位できませんでした。本GPSではcm精度で測位できるため、修繕箇所を正確な位置で保存できます。加えて、写真と高精度位置情報を合わせて記録可能です。修繕箇所や道標物を更にわかりやすく記録できます。更にインフラ・エネルギー工場様向けサービス。ウェアラブル端末で作業員の位置をcm精度で測位できます。スポーツ用の軽量ベストを作業員に取り付けるだけで、リアルタイムに作業員の位置を地図上で把握できます。更に、絶対座標の入った点群をスキャン機能で作成し、地形や物体を3Dで保存することが可能です。
27	一般社団法人 日本測量機器工業会	日本測量機器工業会 ご紹介	日本測量機器工業会は昭和21年4月創立以来、約77年にわたり国内で唯一の測量機器産業の団体として活動を続けてまいりました。関係省庁や関連団体との関係を深め、測量機器工業界の代表機関として、測量機器に関するJIS・ISO・工業会規格の草案作成、その普及促進、基本測量や公共測量に用いる測量機器の校正・検査・検定制度、民間等電子基準点の検定、それを利用したGNSS測量に関する研究などの分野で活動し、産業界並びに国民経済発展に貢献しています。

■ 出展概要

小間 No.	出展者	タイトル	説明
28	公益社団法人日本測量協会	日本測量協会の業務紹介	公益社団法人日本測量協会は、昭和24年の測量法の制定と、測量士・測量士補の国家資格の創設を契機に、測量技術の普及発達と会員相互の親和・社会的地位の向上を図ることを目的として、昭和26年に官・学・産各界の有志により測量技術者の会員団体として設立された内閣府認定の公益法人です。 会員相互の親和、社会的地位の向上のための月刊誌『測量』の発行、測量技術に関する図書の出版、測量専門技術者の認定や各種講習会及び地理空間情報フォーラム等の開催などを通じて最新の測量技術を普及する教育等を実施しています。
29	「測量の日」実行委員会	「測量の日」のご紹介と子供も大人も楽しめるクイズコーナー	測量法が昭和24年6月3日に公布され、平成元年に制定40周年を記念して、建設省（現国土交通省）が6月3日を「測量の日」としました。 「測量の日」実行委員会（測量・地図関係7団体で構成）を中心に、測量の意義及び重要性について国民の理解と関心を一層高めるとともに、地理空間情報のさらなる利活用の促進を図るため、国土交通省、国土地理院、関係省庁、地方公共団体及び関係団体等の協力を得て、全国各地で関連行事を実施しています。 パネルで「測量の日」のご紹介と子供も大人も楽しめるクイズコーナーを用意しました。
30	図書コーナー	関連図書の展示及び販売	図書コーナーでは、関連図書の展示及び販売をいたします。 測量の基礎技術をわかりやすく解説した入門書、測量士・測量士補の国家試験問題とその解答を詳しく解説した受験対策図書、測量技術者のための実務書ならびに公共測量作業規程の準則などの関連図書を紹介しております。 是非、図書コーナーにお立ち寄りください。

■ 掲載動画

小間No.	出展者	動画タイトル	説明
1	株式会社ブログウォッチャー	ビッグデータを活用した、まちづくり最前線「八重洲・日本橋・京橋エリアのまち作り多様な来街者をデジタルで捉える」	計量計画研究所、東京建物様、日立製作所様と合同で行った街づくりへのデータ活用分析の事例です。人流データをどの様に街づくりに生かしていくのかを実例を交えながら紹介していきます。
2	株式会社GEOTRA	都市人流のデジタルツインを実現するGEOTRA	GEOTRAはGPS位置情報を軸とした様々なビッグデータと、合成データ生成技術を掛け合わせることで、現実世界の人や物の動きを再現します。高粒度な人流データをもとに街づくりに携わるお客様をはじめ多くのお客様へご提供しています。
3	イチBizアワード（主催：内閣官房）	「イチBizアワード2023」ビジネスアイデアコンテスト ティザームービー	内閣官房主催の地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト『イチBizアワード2023』を開催！ 最優秀賞は賞金100万、G空間EXPO開催中に表彰式・最終プレゼンテーションを実施します！
4	国土交通省	Project PLATEAU Concept Film Project PLATEAU Use case Film	国土交通省が進める、日本全国の3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化プロジェクト“PLATEAU”。その取組みのコンセプトを表現した映像です。 国土交通省が進める、日本全国の3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化プロジェクト“PLATEAU”。その取組みの一つであるベストプラクティス創出について表現した映像です。
6	株式会社サテライトイメージマーケティング	Pléiades Neoのコンステレーション	Airbus Defence and Space(Airbus DS社)が開発した30cmの分解能を持つ光学衛星 Pléiades Neoは同じスペックを持つ2基の衛星が、同一軌道上で互いに90°の位相に位置するコンステレーションを構成し、地球上のどこでも1日2回の撮影が可能です。
7	一般財団法人日本地図センター	スマートフォン・タブレット地図アプリ「東京時層地図」 あなたも地図地理博士！！地図地理検定 地図店2023 名古屋の魅力再発見	旧版地図や空中写真を重ねて見ることで、地層のようにその土地の変遷を捉えることができる地図アプリです。今年2月には「関西時層地図」をリリースしました。日本全国どこでもご希望の範囲で大型タッチディスプレイで動く時層地図を受注制作いたします。詳しくはウェブサイトをご参照ください。 地図地理検定は、地図や地理の知識を豊かにし、地図を楽しく読み・使う力を養うために、実施する検定です。受験資格の制限はなく、どなたでも受験できます。皆様のチャレンジをお待ちしております。 地図展は、地図展推進協議会が主催し、広く国民の皆様に地図をとおして国土や地域についての理解を深めていただくとともに、より一層地図に親しみ、地図を利用していただくことを目的として実施しています。
11	株式会社パスコ	G空間DXを支える空間情報の収集技術と活用	G空間DXを支える最新計測技術と3次元ビジュアライゼーションソフトウェアのご紹介。 ①道路空間情報収集の最新技術「Real Dimension」 ②ドローン搭載型グリーンレーザースキャナ「TDOT 3 GREEN」 ③3次元ビジュアライゼーションソフトウェア「Skyline」

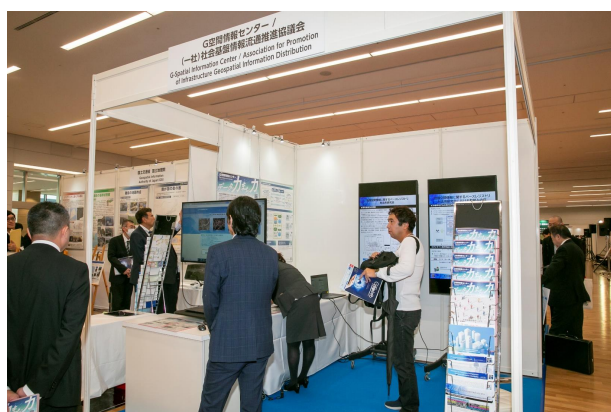
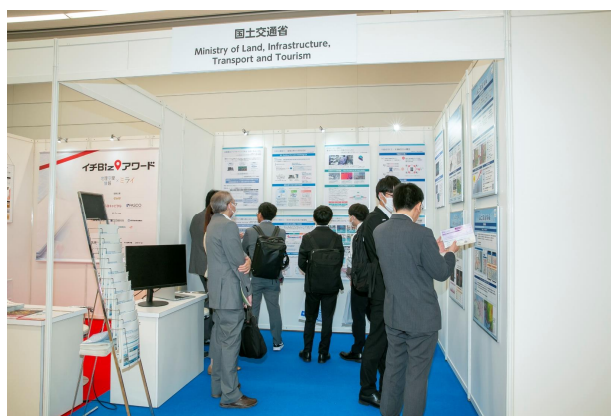
■ 掲載動画

小間No.	出展者	動画タイトル	説明
12	株式会社ホロラボ	XR技術で具現化する都市のデジタルツインプラットフォーム torinome (トライノーム)	torinome(トライノーム)はXR技術を活用した都市のデジタルツインプラットフォームです。3D都市モデル、GIS、画像、動画、3Dモデルなどを3D地球儀上に配置し、現実世界とリンクして可視化できます。
13	アジア航測株式会社	3D都市モデルの活用・発信による“まちづくりのDX”を支援するAAS-DX 釣りドコ	3D都市モデルとは、都市空間に存在する建物などのオブジェクトに名称や用途などの都市活動情報を付与することで、都市空間そのものを再現する3D都市空間情報プラットフォームです。これを活用し都市計画、まちづくり、防災など、society 5.0の実現を推進します。 無料で超高精細なオンラインの海底地形が見られるWebアプリ「釣りドコ」。最新の計測技術で釣りの世界にDX！海底地形で魚の居場所がまる分かり！
14	ジオサーフ株式会社	Introducing ComNav P8H - 日本語字幕版 高性能GNSSモジュール - ComNav K8シリーズ	ComNav Technology社のP8H は、GNSS フルコンステレーションとマルチ周波数に対応したプロフェッショナルGNSS タブレットです。高性能なK803 GNSS モジュールとヘリカル、または測地グレードアンテナを搭載し、外部機器なしでセンチメートル単位のRTK測位が可能です。GISとRTK測定の両方に革命をもたらします。 最新のQUANTUM III SoCチップを搭載したK8モジュールは、非常に堅牢な性能を誇ります。この強力なモジュールはフルコンステレーション・トラッキング能力を持ち、GPS、GLONASS、BeiDou、BeiDou-3、Galileo、SBAS、L-Bandなど、現在および将来のあらゆるGNSS信号を受信可能です。また、慣性計測ユニット（IMU）と高度なGNSSリアルタイム・キネマティック（RTK）技術の組み合わせにより、センチメートル単位の高精度な連続測位が短時間で実現できます。
16	朝日航洋株式会社	オープンソースソフトウェアQGISとコンテンツのご紹介 VIRTUAL SHIZUOKA ～3次元点群データでめぐる伊豆半島～ VIRTUAL SHIZUOKA ～謎解き3次元地形の旅！伊豆半島のふしぎ～	G空間DXにお薦め、誰でも今すぐに自由に使える地理情報システム「QGIS」とコンテンツをG空間初心者にもやさしくご紹介します。 伊豆半島の各所（熱海市街地、大室山、城ヶ崎海岸、七滝高架橋下田市街地 など）の3次元点群データを映像化してご覧いただくとともに、あわせてデータの利活用方法についても紹介します。 東部・伊豆地域の歴史・産業・インフラなどについてひとつひとつが緯度、経度、標高の情報を持った点の集まりである3次元点群データを活かしてご紹介します。
17	国際航業株式会社	都市のDXソリューション 人流データを活用した都市モニタリングソリューション	3D都市モデルを基盤としてデジタルツインの実現に向け3D都市モデルの構築から各種シミュレーションまで一気通貫で提供することにより、都市のデジタルトランスフォーメーションを強力に支援します。 当社の提供する人流データを、2D地図上だけでなく3D都市モデル上でも可視化・分析することで、イベント対策や観光分野・防災分野などにおける、あらゆる政策立案をサポートします。

■ 掲載動画

小間No.	出展者	動画タイトル	説明
19	総務省 統計局	地図で見る統計 (jSTAT MAP)	総務省統計局が整備する、地図で見る統計 (jSTATMAP) の紹介動画です。 jSTAT MAPでは、統計地図の作成や、利用者のニーズに沿った地域分析が可能となるようなさまざまな機能を提供しています。
		統計から日本を紐解こう！なにナゾ JAPAN	総務省統計局が提供する、各府省の公表する統計データを一元化したポータルサイトの政府統計の総合窓口『e-Stat』や、統計データを地図上で見られる『jSTAT MAP』を利用した、統計情報クイズ番組「統計から日本を紐解こう！なにナゾ JAPAN」です。
22	リーグルジャパン株式会社	RIEGL VZ-600i 地上型レーザー 新しい時代へ	RIEGL社のTLS最新モデル VZ-600iのご紹介。 最大発射レート220万点/秒、計測時間 30秒(6mm@10m)の超高速スキャン。これまでのTLSよりも軽量化・高速化を実現。
26	レフィクシア株式会社	レフィクシア株式会社のご紹介	弊社の製品である「LRTKPro2」「LRTK Phone」「LRTKウェア」「LRTKアプリ」、4点の実際の使用感、利用イメージを解説を交えたデモ画面動画でご紹介します。 どのような場所でお使いいただけるか、アプリ画面も交えたイメージをご覧ください。
27	一般社団法人 日本測量機器工業会	日本測量機器工業会のご紹介	様々な分野で活用され進化を続ける測量・精密測位システム、これらを支える活動を推進する日本測量機器工業会についてご紹介いたします。

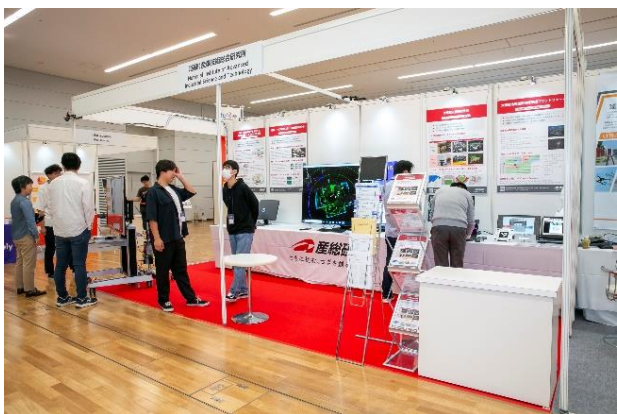
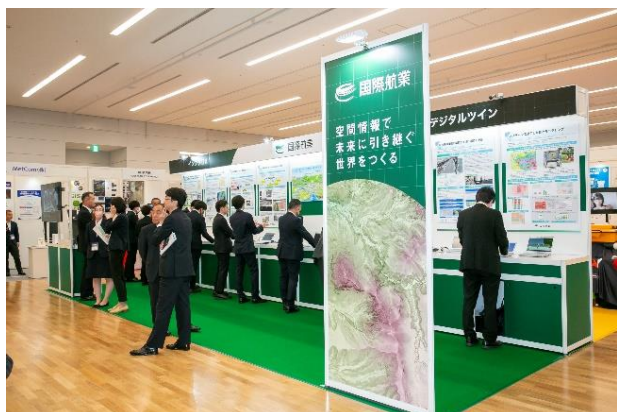
■ 実地開催写真



■ 実地開催写真



■ 実地開催写真



■ 実地開催写真



■ ベンダーフォーラム

講演時間	出展者名	講演タイトル
11月7日 (火) 11:00-11:20	株式会社GEOTRA	都市人流のデジタルツインを実現するGEOTRA～生活者ひとりひとりの動きがわかる新たな人流データの活用～
11月7日 (火) 11:25-11:45	レフィクシア株式会社	cm精度の高精度測位LRTK端末と建設DXアプリ
11月7日 (火) 11:50-12:10	リーグルジャパン株式会社	最新 地上型レーザスキャナ VZ-600i
11月7日 (火) 12:15-12:35	CHCNAV	最新三次元測量機器の紹介

■ オンラインイメージ



公益社団法人日本測量協会

日本測量協会の業務紹介

公益社団法人日本測量協会は、昭和24年の測量法の制定と、測量士・測量士補の国家資格の創設を契機に、測量技術の普及と会員相互の親和・社会的地位の向上を図ることを目的として、昭和26年に官・学・産各界の有志により測量技術者の会合団体として設立された内閣府認定の公益法人です。会員相互の親和、社会的地位の向上のための月刊誌『測量』の発行、測量技術に関する図書出版、測量専門技術者の認定や各種講習会及び地理空間情報フォーラム等の開催などを通じて最新の測量技術を普及する教育等を実施しています。

<https://www.jsurvey.jp/>

お問い合わせ先

公益社団法人 日本測量協会 総務部
sounmu@jsurvey.jp



ベンダーフォーラム (出展者技術講演)

本会場のメインステージにおいて開催したベンダーフォーラム（講演コンテンツ）を配信しています。
本会場開催動画は測量系CPDポイント付与対象となります。

CPDポイント申請はこちらから

プログラム

※動画はアーカイブ配信いたします（11月中旬公開予定）

11月7日（火） 11:00-11:20	都市人流のデジタルツインを実現するGEOTRA ～生活者ひとりひとりの動きがわかる新たな人流データの活用～	株式会社GEOTRA
11月7日（火） 11:25-11:45	cm精度の高精度測位LRTK端末と建設DXアプリ	レフィクシア株式会社
11月7日（火） 11:50-12:10	最新 地上型レーザスキャナ VZ-600i	リーグルジャパン株式会社
11月7日（火） 12:15-12:35	最新三次元測量機器の紹介	CHCNAV

コンテンツ

11月7日（火）
11:00-11:20

株式会社GEOTRA

都市人流のデジタルツインを実現するGEOTRA
～生活者ひとりひとりの動きがわかる新たな人流データの活用～

11月7日（火）
11:25-11:45

レフィクシア株式会社

cm精度の高精度測位LRTK端末と建設DXアプリ

11月7日（火）
11:50-12:10

リーグルジャパン株式会社

最新 地上型レーザスキャナ VZ-600i

11月7日（火）
12:15-12:35

CHCNAV

最新三次元測量機器の紹介

測量系CPDポイント申請

申請受付は終了しました。

測量系CPDポイント申請書（Excel）
ダウンロードはこちら

申請方法・注意事項はこちら

取得ポイント

取得できるポイントは、最大2ポイントです。

- ・ 実地開催分（ブース展示）：1ポイント
- ・ オンライン開催分（出展者動画コンテンツ）：1ポイント

※ポイントは「測量系CPDポイント」のみ申請可能です。

開催期間

2023年11月1日（水）～12月10日（日）
上記期間以降の申請は受付られませんのでご注意ください。

応募条件

下記条件を満たすことが必須となります。

- ・ 必須項目が入力された「測量系CPDポイント申請書（Excel）」の提出
- ・ オンライン開催分：動画閲覧合計が40分以上、「技術的意見または感想」を200字以上、閲覧した各動画における問題に対する回答。
- ・ 実地開催分：ブース出展2者以上に關する「技術的意見または感想」を200字以上。

応募手順

手 順 1

「測量系CPDポイント申請書（Excel）」「オンライン開催分申請シート（Excel）」「実地開催分申請シート（Excel）」に必要事項を入力してください。

手 順 2

入力後、「測量系CPDポイント申請書（Excel）」のファイルをExcelデータのまま保存してください。

手 順 3

地理空間情報フォーラム運営事務局へご提出ください。
※提出の際のメール件名は「【CPDポイント申請書】〇〇〇〇（ご自身のお名前）」で必ずお送りください。

※提出の際のメール件名は「【CPDポイント申請書】〇〇〇〇（ご自身のお名前）」で必ずお送りください。

応募票の入力について

申請方法・注意事項をご確認ください。

[申請方法・注意事項（リンク）](#)

受取票の返送について

- ・ 地理空間情報フォーラム事務局へ申請いただいた方のみ、受取証明書を発行いたします。
- ・ 受取証明書は、申請書に記載されたメールアドレスへPDFにてお送りいたします。
- ・ 発行は12月下旬以降に順次送付いたします。

注意事項

- ・ 動画視聴した申請者本人のみ申請可能です。本人以外の申請が発覚した場合には申請は受け付けられません。
- ・ 申請書の入力内容の使い回しなどを行い申請された場合には、申請は受け付けられません。
- ・ 測量系CPD協議会への学習履歴登録は、ご自身で行ってください。
- ・ 各動画により申請書の必要回答項目が異なりますので、ご注意ください。
- ・ G空間EXPO2023に掲載されているコンテンツを無断で複製、放送（有線・無線）、上映、公開、貸与などすることは法律で禁止されています。

測量系CPDポイントを申請する

■ 広報活動

1. 日本測量協会メールマガジン（2023年5、7月～11月）
2. 月刊「測量」広告（2023年9月号～11月号）
3. G空間EXPO/地理空間情報フォーラム2023 開催記者発表

1. 日本測量協会メールマガジン（5月～11月）

配信対象： 日本測量協会全会員宛

配信日： 2023.5.19 地理空間情報フォーラム2023出展者募集
 2023.7.10 地理空間情報フォーラム2023出展者募集
 2023.8.10 地理空間情報フォーラム2023出展者募集
 2023.9.11 G空間EXPO2023開催告知
 2023.10.10 G空間EXPO2023開催告知
 2023.11.13 G空間EXPO2023オンライン開催中告知
 2023.11.24 G空間EXPO2023オンライン開催中告知

2. 月刊「測量」広告（2023年9月号～11月号：各約14,000部）

2023年9月号P.1、11月号表4



2023年10月号P.1から2ページ



2023年11月号P.1から4ページ



3. 記者発表

投げ込み先：建設関係業界紙4社

（日刊建設工業新聞社/日刊建設通信新聞社/日本工業経済新聞社/建通新聞社）

実施日：2023年10月25日

4. Geoアクティビティコンテスト

主催：国土交通省 国土地理院

Geoアクティビティコンテスト

■ 開催概要

国土地理院は地理空間情報の利活用に関する魅力的な「取組」、新しい「アイデア」、独創的な「サービス」などを展示・発表で紹介し、来場者や参加者との交流を通じて、優良事例の育成・普及、新しいサービスの創出など地理空間情報の利活用促進を目的として「Geoアクティビティコンテスト」を主催している。本コンテストは平成24（2012）年から開始し、今回で12回目となった。

応募があった作品の中から15作品について展示プレゼンテーションが行われました。また、産学官の有識者で構成する審査委員会において審査し、受賞作品について表彰を行いました。

【会場開催】

開催期間 令和5年11月7日（火）～ 8日（水）
（7日：展示／ 8日：展示、発表及び表彰式）
会 場 東京都立産業貿易センター浜松町館 5階展示室

【オンライン開催】

開催期間 令和5年11月1日（水）～12月10日（日）
会 場 GeoアクティビティコンテストWebサイト（<https://www.g-expo.jp/2023/geocon/>）

審査委員一覧

（順不同、敬称略）

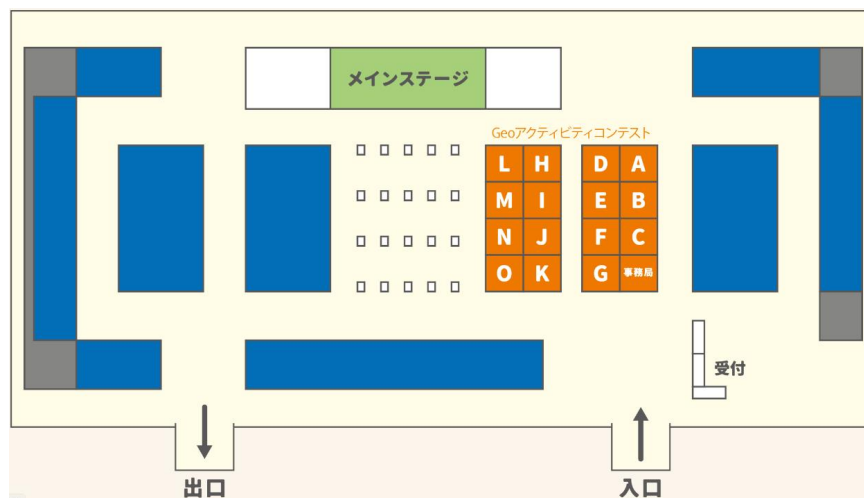
委員長	関根 智子	日本大学 文理学部地理学科 教授
委員	石川 初	慶応義塾大学 環境情報学部 教授
	伊藤 香織	東京理科大学 創域理工学部建築学科 教授
	片岡 義明	フリーランスライター
	小泉 和久	浦安市職員（一般社団法人地理情報システム学会 自治体分科会会長）
	坂下 哲也	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会常務理事
	三橋 浩志	文部科学省初等中等教育局教科書調査官
	山本 佳世子	電気通信大学大学院 情報理工学研究科教授

（事務局 国土交通省 国土地理院企画部地理空間情報企画課）

Geoアクティビティコンテスト

■ 会場開催

1. レイアウト及び出展者



小間 No	出展者	出展タイトル
A	伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム	地理空間情報を活用した肥料起源マイクロプラスチックの調査
B	共愛学園前橋国際大学 渡辺研究室 渡辺 晃輔	Sync Map Viewer
C	愛知工業大学 山本 義幸	低価格GNSS受信機を利用した動画像のタイムスタンプ付加
D	宮崎県立佐土原高等学校 産業デザイン科	神武さまマップ
E	佐土原高校 情報技術部	ミチテラス
F	京都市立京都工学院高等学校 代表 西川 翔威	Haza Board 防災意識の向上を目指して ～双六×ハザードマップ～
G	学生アプリ開発団体Divers 代表 内山 大輔	バリアフリールート共有アプリ「DiversMap」
H	TIGORSプロジェクトチーム (JICA・パスコ)	日本の技術でタイの電子基準点をつなぎ、イノベーションへ貢献！
I	秋山調査設計 秋山 健一郎	S CoPeによる表層崩壊時刻の予測
J	京都市立京都工学院高等学校 代表 鈴木 悠斗	交通安全意識向上シミュレーション
K	東京都市大学総合研究所 デジタル都市空間情報研究開発ユニット	我が国初の日本全土をカバーする現在および将来の推定空き家分布マップの開発とデータ配信環境の整備
L	東京都立大学 都市環境学部 地理環境学科 山本 将大	レイヤを重ねることに特化した地図ビューアの開発
M	齋藤 仁志	防災チャットボットEYE ー毎日、少しずつ防災知識のストックを！ー
N	関ヶ原町歴史民俗学習館サポーター 『不破ふわ塾』（ボランティア団体） 代表 木村 寛之	4次元で「関ヶ原合戦」を可視化
O	愛媛大学附属高等学校 坂田彩夏	急傾斜柑橘園におけるスマート農業 ～地理空間情報の利活用～

Geoアクティビティコンテスト

2. 展示の様子



A
タイトル：地理空間情報を活用した肥料起源
マイクロプラスチックの調査
出展者名：伊予農希少植物群保全
プロジェクトチーム



B
タイトル：Sync Map Viewer
出展者名：共愛学園前橋国際大学
渡辺研究室 渡辺晃輔



C
タイトル：低価格GNSS受信機を利用した
動画像のタイムスタンプ付加
出展者名：愛知工業大学 山本義幸



D
タイトル：神武さまマップ
出展者名：宮崎県立 佐土原高等学校
産業デザイン科



E
タイトル：ミチテラス
出展者名：佐土原高校 情報技術部



F
タイトル：Haza Board
防災意識の向上を目指して
～双六×ハザードマップ～
出展者名：京都市立京都工学院高等学校
代表 西川 翔威

Geoアクティビティコンテスト



G
タイトル：バリアフリールート共有アプリ
「DiversMap」
出展者名：学生アプリ開発団体Divers
代表 内山 大輔



H
タイトル：日本の技術でタイの電子基準点を
つなぎ、イノベーションへ貢献！
出展者名：TIGORSプロジェクトチーム（JICA・パスコ）



I
タイトル：S Co Peによる表層崩壊時刻の予測
出展者名：秋山調査設計 秋山健一郎



J
タイトル：交通安全意識向上シミュレーション
出展者名：京都市立京都工学院高等学校
代表 鈴木 悠斗



K
タイトル：我が国初の日本全土をカバーする
現在および将来の推定空き家分布
マップの開発とデータ配信環境の整備
出展者名：東京都市大学総合研究所
デジタル都市空間情報研究開発
ユニット



L
タイトル：レイヤを重ねることに特化した地図
ビューアの開発
出展者名：東京都立大学 都市環境学部
地理環境学科 山本将大

Geoアクティビティコンテスト



M
タイトル：防災チャットボットEYE
—毎日、少しずつ防災知識のストックを！—
出展者名：齋藤 仁志



N
タイトル：4次元で「関ヶ原合戦」を可視化
出展者名：関ヶ原町歴史民俗学習館サポーター
『不破ふわ塾』（ボランティア団体）
代表 木村 寛之



O
タイトル：急傾斜柑橘園におけるスマート農業
～地理空間情報の利活用～
出展者名：愛媛大学附属高等学校
坂田彩夏



会場入口側より撮影

3. プレゼンテーション



主催者挨拶



プレゼンテーションの様子

Geoアクティビティコンテスト

4. 表彰式等

出展された作品について、産学官の有識者で構成する審査委員会において審査し、受賞作品について表彰を行いました。

日時：令和5年11月8日（水） 16:00～17:00

場所：メインステージ

Geoアクティビティコンテスト 2023年受賞作品

（敬称略）

最優秀賞	地理空間情報を活用した肥料起源マイクロプラスチックの調査	伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
国土地理院データ活用賞	4 次元で「関ヶ原合戦」を可視化	関ヶ原町歴史民俗学習館サポータ 『不破ふわ塾』（ボランティア団体）代表 木村 寛之
	急傾斜柑橘園におけるスマート農業～地理空間情報の利活用～	愛媛大学附属高等学校 坂田 彩夏
測量新技術賞	低価格GNSS 受信機を利用した動画像のタイムスタンプ付加	愛知工業大学 山本 義幸
地域貢献賞	ミチテラス	佐土原高校 情報技術部
防災減災賞	防災チャットボットEYE —毎日、少しずつ防災知識のストックを！—	齋藤 仁志
地理教育賞	交通安全意識向上シミュレーション	京都市立京都工学院高等学校 代表 鈴木 悠斗
	レイヤを重ねることに特化した地図ビューアの開発	東京都立大学 都市環境学部 地理環境学科 山本 将大
べんりツール賞	Sync Map Viewer	共愛学園前橋国際大学 渡辺研究室 渡辺 晃輔
国際貢献賞	日本の技術でタイの電子基準点をつなぎ、イノベーションへ貢献！	TIGORS プロジェクトチーム（JICA・パスコ）
奨励賞	我が国初の日本全土をカバーする現在および将来の推定空き家分布マップの開発とデータ配信環境の整備	東京都市大学総合研究所 デジタル都市空間情報研究開発ユニット



主催者挨拶



最優秀賞



審査委員長の講評



出展者のみなさん

Geoアクティビティコンテスト

■ オンライン開催 (アクセス数 : 8,431)

1. Webページ (PC版)

TOPページ

ごあいさつページ

会場概要

2023年11月7日(水)・8日(木)10:00~17:00

会場 東京都立産業貿易センター浜松町館5F (東京ポトシティ竹芝オフィスタワー)

入場無料

オンライン開催

2023年11月1日(水)~12月10日(日)

Geoアクティビティコンテスト表彰式

賞状授与

Geoアクティビティコンテストは、地理空間情報の活用に関する様々な「アイデア」、「サービス」などを紹介・発表の場として、地理空間情報利用の促進を図り、優秀事例の発表・普及、新しいサービスの創出など、地理空間情報の活用推進を行うことを目的としたイベントです。

賞状種別	賞状内容
A	【最優秀賞】 伊予銀行グループが主催するデジタルコンテスト
B	【優秀賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
C	【佳作賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
D	【奨励賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
E	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
F	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
G	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
H	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
I	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
J	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
K	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
L	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
M	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
N	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
O	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険
P	【特別賞】 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険 株式会社東京海上日動火災保険

会場レイアウト

会場レイアウト図は、メインステージ、入場口、出口、および各ブースの配置を示しています。

Greetings

ごあいさつ

国土情報院 院長
大木 章一

Geoアクティビティコンテストの開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。

おかげさまで、本コンテストは今年で12回目の開催となりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインでも開催するようになり、今年で4回目になります。

本コンテストは、地理空間情報の活用に関する様々な「取り組み」、「アイデア」、「サービス」などを紹介し、参加者や来場者との交流を通じて、優良事例の育成・普及、新しいサービスの創出など、地理空間情報の活用推進を行うことを目的としたイベントです。

本審査に選考された皆様から、事前に提出いただいたプレゼンテーション動画及び作品手帳をもとに審査を行い、表彰を行います。表彰式は、11月8日(木)16時から、G型EXPOメインステージ(東京都立産業貿易センター浜松町館5階)において行います。

また、表彰式に先駆けて、G型EXPOメインステージにおいて11月8日(木)12時30分から、各作品の紹介が行われます。

是清この機会に、会場への御来場やオンラインで各応募作品を御覧いただければ幸いです。そして、この取組が地理空間情報の新たな利活用への契機となることを期待しております。

Geoアクティビティコンテストが、発表される皆様にも、また観覧される皆様にも実り多いものとなりますよう御念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

国土交通省 国土情報院
Geospatial Information Authority of Japan

個人情報保護 | プライバシーポリシー | リンク・お問い合わせ | ウェブアクセシビリティの確保

Geoアクティビティコンテスト

出展者・作品ページ

各出展者のページ

(例：伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム)

Geo Expo
出展者・作品

出展者・作品

A 地理空間情報を用いた肥
料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

B Sync Map Viewer
防災空間情報活用システム 伊予農希
少植物群保全プロジェクトチーム

C 地理空間情報を用いた肥
料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

D 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

E 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

F 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

G 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

H 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

I 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

J 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

K 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

L 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

M 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

N 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

O 肥土調査結果の可視化
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

Geo Expo
地理空間情報を用いた肥料起源
マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

《最優秀》

キーワード 地理空間情報、リモートセンシング

地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

A 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

キーワード 地理空間情報、リモートセンシング

1. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

2. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

3. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

4. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

5. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

6. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

7. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

8. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

9. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

10. 調査 - 地理空間情報を用いた肥料起源マイクロプラスチックの調査
伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム

PDFを見る

Geoアクティビティコンテスト

会場アクセスページ

お問い合わせページ



Geoアクティビティコンテスト

■ 広報活動

1. 報道発表

- ・「Geoアクティビティコンテスト」作品募集! (2023-04-06)

2. 広報誌・雑誌等

- ・国土地理院「測量と地理空間情報関連メールニュース」
第81号 (2023年5月発行)
第83号 (2023年9月発行)
- ・国土地理院広報 (<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/index.html>)
658号 (2023年4月発行)
664号 (2023年10月発行)
- ・月刊「測量」(公益社団法人 日本測量協会 発行)
2023年5月号
2023年6月号
2023年7月号
2023年8月号
2023年9月号
2023年10月号
2023年11月号
2024年1月号
- ・GIS NEXT (株式会社 ネクストパブリッシング 発行)
83号 (2023年4月発行)
86号 (2024年1月発行)

3. SNS

Xにて、適宜ポストを投稿。

- ・Geoアクティビティコンテストアカウント : 66投稿

4. 地図と測量の科学館

- ・常設展示室にパネル展示
- ・ポスター掲示



Geo EXPO 2023 アクティビティコンテスト 作品募集ポスター。ポスターには「Geo EXPO 2023 アクティビティコンテスト 作品募集」とあり、募集期間が「2023年5月31日(水) 17時 必着」と記載されている。また、「新しい時代に、新しいこと、始めてみよう。」というメッセージと地球のイラストが描かれている。ポスター下部には、イベントの様子や問い合わせ先が記載されている。

Geoアクティビティコンテスト
作品募集のチラシ

5. 講演・シンポジウム

主催：一般財団法人 宇宙システム開発利用推進機構

■ G空間EXPO2023講演・シンポジウム

名 称 G空間EXPO2023 講演・シンポジウム
開催期間(公開期間) 2023年11月1日(水)～12月10日(日)
会 場 G空間EXPO2023WEBサイト内
対 象 生徒、社会人、専門家
料 金 無料

2023年のG空間EXPOは、3回目（2020年、2022年、2023年）のオンラインのみによる開催となりました。

前回までのオンライン開催の主要因であった新型コロナに関しては5類移行による規制解除があったため、本講演シンポジウムも現地開催を検討したのですが、2021年にハイブリッド開催を行った際、現地開催が2団体だったこと、その際のハイブリッド開催に関して会場の配信インフラに不満があったことに加え、開催側のマンパワー不足等に鑑み、昨年に引き続き配信のみの開催と致しました。

今回、配信参加団体が6団体（開始当初は4団体）と過去最低となり、トレンドとしては毎年減少しています。

原因については明確なことは申し上げられませんが、①開催者を引き付けるメリットを提示できていない②フォーラムのオンラインとの差別化ができなかった③G空間Expo自体の求心力 等が複合要因で影響しているのではないかと考えております。

来年度は開催場所が変更になりますが、現地開催を行うのであれば、現地開催に足る理由付け（なぜオンラインではいけないのか）が提示できなければ2021年同様参加団体がないという状況になりかねません。また、現地での開催を行うか否かにとどまらず、講演シンポジウムの開催の在り方についてゼロベースで検討すべき時期に来ているのだと感じました。

プログラム一覧

	主催団体※	講演・シンポジウム名
①	(一社) 日本写真測量学会 (一社) 日本リモートセンシング学会	我が国の地球観測グランドデザインと基幹衛星の将来計画
②	日本地図学会	Mapping for SDGs : 達成度が見える「持続可能な世界へのマッピング」
③	内閣府宇宙開発戦略推進事務局 準天頂衛星システムサービス株式会社	みちびきウェビナー ～ みちびき利活用最前線 in G空間 EXPO 2023 ～
④	一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)	G空間情報センター シンポジウム ～デジタル化時代の基盤 G空間情報の整備と活用に向けて～
⑤	公益社団法人 日本地理学会	地域に飛び込む若者：なぜ今地域か？
⑥	地図みらいコンソーシアム	地理教育コーナー 「地理総合スタート！ ～G空間技術で楽しく学ぶ地理・地形・歴史～」

※申し込み順

講演・シンポジウム 実施報告①

■【我が国の地球観測グランドデザインと基幹衛星の将来計画】

実施者：日本写真測量学会、日本リモートセンシング学会（以上主催）、地理情報システム学会（共催）

開催日時：2023年11月1日（水）～12月10日（日） オンデマンド配信（測量CPD対象）

<主旨>

2022年10月のイプシロンロケット打ち上げ失敗、2023年3月のH3ロケット試験機1号機の打ち上げ失敗と先進光学衛星「だいち3号」（ALOS-3）の喪失など、我が国のロケット開発と地球観測は今、試練の時を迎えている。

このような中、2023年6月13日に新しい宇宙基本計画が閣議決定され、同日、工程表が宇宙開発戦略本部において決定されている。その中で、前述の打ち上げ失敗とALOS-3喪失も踏まえた基幹地球観測衛星の計画見直しが示されている。また、今後の宇宙開発体制のあり方に関する「タスクフォース会合・リモートセンシング分科会」では、新しい地球観測ミッション提案の試行公募（第三回）が行なわれている。

さらに、2022年9月に設立された衛星地球観測コンソーシアム（Consortium for Satellite Earth Observation; CONSEO）では、2023年3月に提言「衛星地球観測の全体戦略に関する考え方」、2023年6月に光学・SAR観測WGにおいてALOS-3喪失も受けた次期光学ミッションの具体的なミッションコンセプト提案がまとめられている。

このような動向も受け、本シンポジウムでは、「我が国の地球観測グランドデザインと基幹衛星の将来計画」をテーマに、主に基幹地球観測衛星を中心としたこれまでの経緯と現時点での将来計画、これらを後押しする技術開発やコミュニティ等の関連活動に関する理解を深め、将来を展望する機会としたい。

<プログラム> -----

- 0 開会のご挨拶／赤松幸生（一般社団法人日本写真測量学会 副会長）
- 1 「地球観測グランドデザイン」／本多嘉明（千葉大学 環境リモートセンシング研究センター 准教授）
- 2 「次期光学ミッションの方向性について」／竹上直也（文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課 企画官）
- 3 「JAXA GCOMミッションの成果と将来」／高橋暢宏（名古屋大学 宇宙地球環境研究所 教授）
- 4 「GPM（全球降水観測計画）からAOS PMM（大気観測システム 降水レーダ衛星）へ」
／高敷縁（東京大学 大気海洋研究所 教授／JAXA GPM Project Scientist）
- 5 「GOSATシリーズについて～宇宙からの温室効果ガスの長期観測～」／松永恒雄（国立環境研究所衛星観測センター長）
- 6 「ひまわり後継衛星計画について」／安藤昭芳（気象庁 気象衛星課 情報通信システム班長）
- 7 「将来に向けた衛星観測技術開発」／木村俊義（宇宙航空研究開発機構 センサ研究グループ長）
- 8 「衛星地球観測コンソーシアム（CONSEO）の活動」
／松尾尚子（CONSEO事務局／JAXA衛星利用運用センター 技術領域主幹）

<感想>

今年度は、「我が国の地球観測グランドデザインと基幹衛星の将来計画」というテーマでシンポジウムを実施しました。基幹地球観測衛星を中心としたこれまでの経緯と現時点での将来計画、これらを後押しする技術開発やコミュニティ等の関連活動をご紹介しました。これまでシンポジウムに参加されていなかった方も含め、多数の方に興味を持ってご聴講頂くことができました。

アンケート結果からも、「相次ぐロケット打ち上げ失敗やだいち3号の喪失は非常にショッキングで、その後の宇宙開発事業の動向が気がかりであったので、本シンポジウムで将来計画や技術開発の動向などを聴くことができ有意義であった」「時宜を得た講演内容が盛りだくさんであり、また各分野の専門家の方からのお話でしたので、情報収集としても大変ありがたかった」などの意見を多く頂き、好評であった状況が伺えました。全体の内容として良い評価が得られたと考えています。

昨年に続いてオンデマンド配信での開催でしたが、関係各位の多大なご協力もあり、充実したプログラムにできました。質疑応答を含むハイブリッド形式を望む意見も頂戴しておりますので、次年度以降も方法を検討しながら開催を目指して参りたいと考えています。

（日本写真測量学会 事務局 岩下典子）

■ビデオ・シンポジウム



日本地図学会

企画・集会委員長：太田 弘

“Mapping for SDGs :

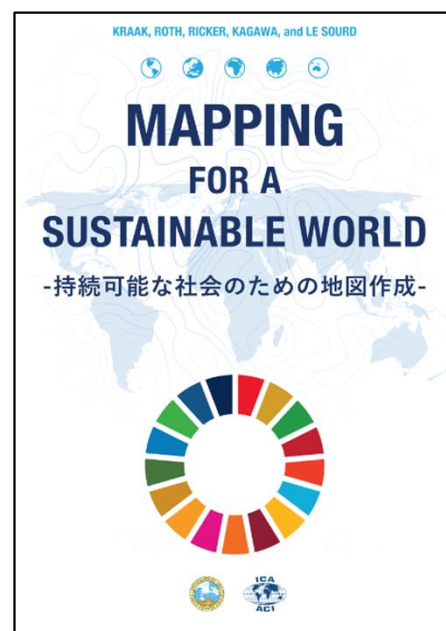
達成度が見える「持続可能な世界へのマッピング」”

1. 翻訳の経緯と趣旨

本書は国際地図学協会（ICA）と国際連合（国連、UN）の共同出版、“Mapping for a Sustainable World”と称し、地理情報と地図学コミュニティとして団結してSDGsという包括的な国際社会の目標に寄与したいというビジョンを持って編集された共同出版物である。

“2030 Agenda for Sustainable Development (SDGs) 持続可能な開発のための2030、アジェンダ”は2015年の国連総会の加盟国193カ国によって今後の国際社会の白書として採択された。国際社会は17ゴール、169のターゲットをモニターするために230（現在は247）のSDGグローバル指標を設定したが、これらの目標をどのような方法で達成度を検証するかが課題であった。その検証に用いられるのがターゲットテーマに沿った主題図の作成である。その為の主題図作成の地図学マニュアルが本書である。

本シンポジウムでは、日本地図学会がICAとUNの許可を得て設置された「持続可能な世界への地図作成」日本語訳専門部会（主査：吉田桃子）翻訳本の試案の検証を行った。



2. シンポジウムの登壇者

今井 健三（日本地図学会 名誉会員、地図用語部会主査、元海上保安庁海洋情報部）、

森田 喬（日本地図学会 前会長、ICA元副会長）、**若林芳樹**（日本地図学会常任委員、東京都立大学教授）、**Menno-Jan Kraak**（ITC/University of Twente; 元 ICA President and lead editor of MSW）、**Britta Ricker**（University of Utrecht; ICA WG Cartography and Sustainable Development Chair）、**加川 文子**（元国際連合地理空間情報課地図班長、現職国際連合レバノン暫定駐留軍GIS班長）、**吉田 桃子**（慶應義塾大学大学院生、「持続可能な世界への地図作成」日本語訳専門部会主査）、**太田 弘**（司会：日本地図学会 常任委員 企画・集会委員長、元慶應義塾大学）

3. 本書の今後の利活用と入手方法

本書は現在（2023年12月）において最終校正が行われ、順調に行けば2024年5月に、本学会の機関紙 雑誌「地図」の添付地図として会員・特別会員、及び、SDGsの国内関連団体に無料で配布される予定である。本書を必要とされる団体・個人は本学会事務局に問い合わせを欲しい。



第一部



第二部

シンポジウムビデオ

■ みちびきウェビナー

～ みちびき利活用最前線 in G空間EXPO 2023 ～

1. 開催概要

- ・ 日 時：2023年11月9日（木）13時30分～15時40分
- ・ 会 場：Zoomによるオンライン開催（参加無料、事前登録制）
- ・ 主 催：内閣府宇宙開発戦略推進事務局、準天頂衛星システムサービス株式会社
- ・ 運 営：一般財団法人日本宇宙フォーラム、一般財団法人日本情報経済社会推進協会

2. 講演内容

- ・ 開会挨拶
内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 準天頂衛星システム戦略室 室長 三上建治
- ・ 「みちびき」利用拡大活動の最新状況
NECソリューションイノベータ株式会社 主席プロフェッショナル 神藤英俊氏
- ・ 建設業（土木分野）におけるCLASの有効性
西松建設株式会社 技術研究所 先端技術グループ 戸田泰彰氏
- ・ QZSS測位システムを活用した自動運航船の研究開発
国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所 特別研究主幹 平田宏一氏
- ・ 油圧ショベルとダンプトラックによる残土搬出の協調自動化における「みちびき」利用可能試験
合同会社ビスパル 代表社員 馬渡純氏
- ・ みちびきを利用した実証事業 広域災害発生時における、みちびきを利用した洋上風力発電所の点検事業
エアロダインジャパン株式会社 代表取締役CEO 鹿谷幸史氏
- ・ 準天頂衛星「CLAS」を利用した高精度東京湾縦断飛行と今後の展望
一般財団法人先端ロボティクス財団 理事長 野波健蔵氏
- ・ 北海道開発局の除雪自動化の取り組みーみちびきの利用状況ー
国土交通省 北海道開発局 事業振興部 機械課 機械施工専門官 小野寺敬太氏
- ・ みちびきの「センチメートル級測位補強サービス」を活用した自律航行システム
株式会社エイトノット 代表取締役CEO 木村裕人氏
- ・ 閉会挨拶
準天頂衛星システムサービス株式会社 代表取締役社長 石橋海

3. 参加状況およびアーカイブ配信

- ・ 登録者数：208
- ・ ユニーク視聴者：149
- ・ 最大同時視聴者数：131
- ・ アーカイブ配信：https://qzss.go.jp/events/webinar_231218.html

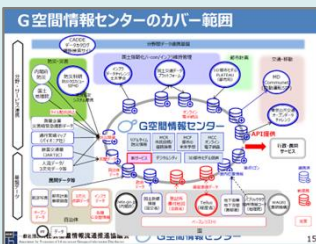
■ G空間情報センター シンポジウム

～デジタル化時代の基盤 G空間情報の整備と活用に向けて～

実施者：G空間情報センター

11月9日（木）G空間EXPO2023におきまして、「G空間情報センター シンポジウム ～デジタル化時代の基盤 G空間情報の整備と活用に向けて～」を開催いたしました。昨年に引き続き今回もオンライン開催となりましたが、130名を超える多くの皆様にご視聴いただきました。誠にありがとうございました。

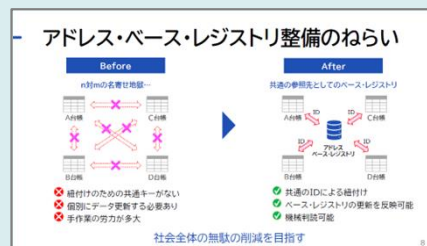
● G空間情報センターのこれまでの歩み



社会基盤情報流通推進協議会 代表理事 関本より、G空間情報センター（以下、センター）及び社会基盤情報流通推進協議会（以下、AIGID）が提供するサービスや新しいデータの提供・流通促進等の直近1年間の主な取り組みについてご説明いたしました。アクセス数の多いデータセットや研究会・ワークショップの開催についてご紹介いたしました。

● 基調講演：デジタル庁のベース・レジストリの取り組み

デジタル庁 中村様より、デジタル庁のベース・レジストリの取り組みについてご講演いただきました。令和5年6月に閣議決定されたデジタル社会の実現に向けた重点計画を踏まえた具体的な取り組みとして、不動産関係ベース・レジストリの活用検討やアドレス・ベース・レジストリの整備について、ご紹介いただきました。



● 話題提供

アドレス・ベース・レジストリへの期待

- 現地調査や既存資料の活用で利用
- 多くの情報が「調査地点名」ベースで整備されている
- 調査票、各種標準ラベル、etc...
- 「調査地点名」→「位置」変換できると大量データが使用可能
- 特に過去の地名が入ると嬉しいですが...

社会基盤情報流通推進協議会 井上より、当協議会のベースレジストリの取り組みについてご紹介しました。また、農研機構 岩崎様からは農業環境分野におけるベースレジストリの活用事例を、オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン 飯田様からは地図整備のためのベースレジストリの整備の重要性についてお話しいただきました。

● パネルディスカッション：デジタル化時代の基盤 G空間情報の整備と活用に向けて

各登壇者の皆様及びAIGID関本により、前半の各ご講演を踏まえ「G空間情報の整備と活用に向けて」と題し、ベースレジストリをテーマにパネルディスカッションを行いました。アドレス・ベース・レジストリを例に、データ利活用のための現状の課題や取り組み、今後の展望、センターが果たすべき役割について、産官学のそれぞれの立場からご意見をいただきました。



シンポジウムの様子は[Youtube](https://www.youtube.com/watch?v=...)で配信しています。当日視聴できなかった方はぜひご視聴ください。

G空間情報センター：<https://www.geospatial.jp/>

■地域に飛び込む若者：なぜ今地域か？、公益社団法人日本地理学会

1. 趣旨説明

オーガナイザー 一ノ瀬俊明（企画専門委員/国立環境研究所）

Rural Labo（2020年発足）は、全国の地域活性化に取り組んでいる/関心のある若者が集う地域活性化コミュニティである。現在では全国から600名以上が参加し、オンラインでの情報交換や勉強会、全国各地でのミートアップイベントなどを通して、若者同士のつながりを生み出している。ここには田園回帰の移住者も多数参加している。本シンポジウムでは、Rural Laboメンバーと地理学研究者の対談を、賛否両論の立場で行う。

2. Rural Laboでの実践（埼玉県秩父郡横瀬町）

村上悠剛（横瀬町地域おこし協力隊/Rural Labo共同代表）

転勤族の家庭に育ち、大都市の生活における様々な矛盾を感じる中で、法政大学社会学部を休学して活動に参加。横瀬町では飲食店や農家の支援などに従事。座学としての地域活性化ではなく、実践する場としてのRural Labo。長野県辰野町など、全国に活動拠点を形成。移住促進のみならず関係人口創出や、合宿免許とタイアップした地域留学などのイベントも運営。メンバーのうち400名以上が具体的な地域に関わり、6名が地域おこし協力隊員となっている。活動を通じ、地域の「分断・二極化」を感じることもある。活動のスピード感が大切。商品の価格設定など、サービスの価値を巡って地元の理解を得にくい場面もある。

3. Rural Laboでの実践（神奈川県高座郡寒川町）

塚本健太（一橋大学修士課程/寒川町鉄道保存会代表）

都市計画制度（用途地域）の視点で人口減少への対応を研究。都市からの視点ではない地域の見方が重要。人口オーナス期のまちづくりは、法制度だけに依存できない。まちづくりの民主化が必要。旅行を通じた気軽な地域への関わりに有効性。寒川町では、40年前に廃線になった鉄道を復活するプロジェクトで活動。産業遺産を観光資源として再生し、新たな交流の場を形成。現在保存会は地域外のメンバーのみであるが、鉄道系イベントを通じた地域の人々との連携もある。最近は展示用の鉄道車両も購入。登録有形文化財である和館の活用プロジェクト（カフェ）にも参加。都内における自治会組織が弱さをいかに補うか（ここに関係人口を活用）。

4. パネル討論・まとめ

コメンテーター：吉田国光（立正大学）・小島泰雄（京都大学）

地域に出る際の専門性の違いは。工学（治療）か理学（診断）か（地理学は後者）。休学してまで地域に飛び込むことの意義は（周囲の）理解を得られているか。地域からの期待との相克は。若者の関心に「地域」が出てきたのは最近の傾向。政策的な誘導はあるのかもしれないが、日本社会のおかれている状況も関係。近代まではトップダウン的な身分制社会。地域は行政主導だったが、昨今行政は弱っている。若者が地域を放っておけなくなった。農村の高齢化が外の力を欲しており、田園回帰が進行。一方日本では都市の成熟を見ないまま21世紀になってしまった（今後の課題）。

地域調査が地域の負担になっているだけではないかというモヤモヤ感からRural Laboの活動に行きついた。いずれは公務員としての活躍に今の経験を活かしたい。わくわく感がモチベーション。協力隊員の場合、ローカルな仕事（視点）でしか報酬が得られない（よその自治体のことはわからないまま）。地方出身者と大都市出身者とは地域への想いに温度差（交流で克服したい）。学生として地域に関わる場合は「一時的」。移住者のレベルと「関係人口」のレベルにも違い（できることとできないこと）。

地域は「方法」。中の人を巻き込める。地域を作る感覚が重要。

講演・シンポジウム 実施報告⑥

■ 地理教育コーナー

「地理総合スタート！ ～G空間技術で楽しく学ぶ地理・地形・歴史～」

地図みらいコンソーシアム

1. 開催趣旨

2019年に、39年ぶりの日本開催となったICC2019国際地図学会議に向けて産学官連携グループ「地図みらいコンソーシアム」が発足し、G空間EXPO2020以降3回にわたって講演シンポジウムHP内にて様々なプログラムを発表し多くの方に視聴いただいた。4回目となるG空間Expo2023でも引き続き複数のプログラムを公開した。

2. 公開プログラム概要

■ テーマ① 「地図や地理情報システムで捉える現代世界」

【地理総合】A 地図や地理情報システムで捉える現代世界

- 1-1 「地理教材共有サイト」
- 1-2 「授業で使える当館所蔵地図」
- 1-3 日本の歴史GISプラットフォームの構築-Japanese Old Maps Online-
- 1-4 ゼンリンミュージアムの常設展示と、新たに存在が確認された伊能小図（實測輿地圖）の紹介
- 1-5 長久保赤水「赤水図」の新たな地理教育への活用

■ テーマ② 「命を守る防災教育と地理空間情報」

【地理総合】C 持続可能な地域づくりと私たち

- 2-1 オンライン講座：学区の地図を活用した災害リスクの理解
- 2-2 大分県の防災・減災に役立つ情報を発信！「おおいた減災スクラム」
- 2-3 位置情報×防災 位置情報データは防災を変えることができるか

■ テーマ③ 「白熱地歴探究！地形で読み解く関東地方、首都圏の発展」

3-1 関東の地形形成ヒストリー

・関東山地、第四紀、武蔵野台地の地形（縄文海進など）

3-2 古代史から中世へ 流域・道でとらえる関東の地誌

・古代律令制と「東国」風土記 ・板東武士の登場と「鎌倉殿」

3-3 戦国関東の「三国志」！ 信玄VS北条氏VS謙信

・甲府盆地の形成 ・日本を代表する「扇状地」

・甲府盆地を流れる河川と水害 ・武田信玄の治水事業「信玄堤」

3-4 近世以降の都市発展ストーリー

・城下町 ・宿場町 ・八王子「桑都（そうと）物語」・文明開化

3-5 首都圏としての発展

・鉄道等と沿線都市 ・戦後の首都圏整備

・現代の首都圏のすがた（首都圏白書）

以上

6.（同時開催）イチBizアワード

主催：内閣官房 地理空間情報活用推進室

(同時開催) イチBizアワード

■ イチBizアワード概要

内閣官房地理空間情報活用推進室では、既存分野にとらわれない斬新なアイデア・スキルを持つ人材の発掘とアイデアの事業化を目指し、地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」を開催した。本コンテストは昨年に引き続き第2回目の開催となった。

今年度の新たな取組として、表彰式会場で最終プレゼンを実施し、観客によるリアルタイム投票に基づき授賞する「オーディエンス特別賞」を新設した。

会場では、応募総数100件の中から選ばれた最優秀賞を含む各受賞作品について、11月7日開催の表彰式にて表彰した。

【表彰式】

開催期間 令和5年11月7日（火） 15:00～17:00

会 場 東京都立産業貿易センター浜松町館 5階展示室メインステージ

【展示】

開催期間 令和5年11月7日（火）～8日（水）

会 場 東京都立産業貿易センター浜松町館 5階展示室

有識者審査員 (五十音順、敬称略)

石元 良武	DBJキャピタル株式会社投資部シニアインベストメントマネージャー
新谷 美保子	TMI総合法律事務所パートナー弁護士
関 治之	一般社団法人 コード・フォー・ジャパン代表理事
関本 義秀	東京大学空間情報科学研究センター教授
日高 洋祐	株式会社MaaS Tech Japan 代表取締役CEO 一般社団法人JCoMaaS理事兼事務局長

協賛企業 (五十音順)

朝日航洋株式会社、アジア航測株式会社、エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社、国際航業株式会社、株式会社ゼンリン、東海旅客鉄道株式会社、日本郵政キャピタル株式会社、株式会社パスコ

(同時開催) イチBizアワード

イチBizアワード 2023年受賞作品 (敬称略)

最優秀賞	レボサク - 未来につなぐ農業DX／車両と圃場の管理システム	エソウイン株式会社 大野 宏
技術基盤部門賞	屋内外3次元測位可能な地上波測位システムで衛星測位システムを補完し、地理空間情報の利用基盤安定化及び豊かな利用シーン創出に貢献	MetCom株式会社 荒木 勤
生活安全部門賞	地理空間情報を活用して、子どもの安全を守るサービス	Adora株式会社 富田 直人
脱炭素部門賞	Carbontribe Labs	Carbontribe Labs 矢野 圭一郎、加藤 有希、 三宅 沙知子
未来アイデア大賞	移動式洋上風力発電によるエネルギー供給	東京大学工学部 岩本 悠希、田口 新風、 松川 純也
未来アイデア特別賞 オーディエンス特別賞	山林を救う。	横浜市立南高等学校 西藤 祐介

協賛企業特別賞

受賞アイデア	提供企業
レボサク - 未来につなぐ農業DX／車両と圃場の管理システム	エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
地理空間情報を活用して、子どもの安全を守るサービス	アジア航測株式会社
地理空間情報を活用した、ドローンによる鉄道点検管理サービス	東海旅客鉄道株式会社
OPT√ (オプトルート)	日本郵政キャピタル株式会社
山林を救う。	国際航業株式会社 株式会社ゼンリン
災害時ネクストアクション	株式会社パスコ

(同時開催) イチBizアワード

表彰式の様子



来賓挨拶
(衆議院議員・経済再生担当大臣 新藤義孝 様)



主催者挨拶 (小善室長)



最優秀賞受賞 (エゾウィン株式会社・大野氏)



受賞者集合写真

7. 広報

主催： G空間EXPO運営協議会

広報（タイトルロゴ、キービジュアル）

■ タイトルロゴ（再掲）



■ キービジュアル（再掲）



広報（国土交通省における報道発表）

■ 国土交通省における報道発表

国土交通省においては、政策統括官及び国土地理院の連名により報道発表を行った。

〔配布先：国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会
及び筑波研究学園都市記者会〕

10月19日(木)14時 内容：①報道発表資料 ②添付資料

①報道発表資料

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

1. 国土交通記者会
2. 国土交通省建設専門紙記者会
3. 国土交通省交通運輸記者会
4. 筑波研究学園都市記者会
令和5年10月19日(木) 14時同時配付

Press Release

令和5年10月19日
政策統括官
国土地理院

「G空間 EXPO2023」を11月7日・8日に開催します！
～今年のテーマは「いま、ここ、未来。すべてはG空間の中に。」～

産学官の連携により、地理空間情報の活用有効性や最新技術の動向に係る講演、展示、シンポジウムを行うことで最新のG空間情報技術の活用推進及び普及啓発を図るイベント、「G空間 EXPO2023」を開催します。なお、地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチ Biz アワード」の発表・表彰も行います。

地理空間情報（G空間情報）とは、「位置」と「時間」、その関連情報から形成される情報です。G空間情報を活用することで新しいサービスや産業の創出に加え、自然災害や環境問題への対応、産業・経済の活性化、豊かな暮らしの実現といった様々な社会課題の解決を目指します。その実現に向けてG空間情報技術の普及・啓発を図るため、2010年からG空間EXPOを開催しており、今年で13回目を迎えます。

○開催日程

日時：令和5年11月7日(火)・8日(水) 10:00～17:00

※令和5年11月1日(水)～12月10日(日)まで公式サイトにおいてオンラインでも開催します。

会場：東京都立産業貿易センター浜松町館 5階展示室及び4階会議室【受付5階、入場無料】

主催：G空間EXPO運営協議会

○オープニングセレモニー

日時：令和5年11月7日(火) 10:00～10:20

会場：5階展示室 メインステージ

出席者：国土交通副大臣（予定）、産・学・官の代表者

※取材・カメラ撮影可能です。取材を希望される方は、11月2日(木)17時までに「[取材申込書](#)」にてお申し込みください。

○基調講演 石原 良純 氏 地区大使・俳優・気象予報士

日時：令和5年11月7日(火) 13:00～14:00

会場：5階展示室 メインステージ

講演名：「地図を楽しむ～災害時には必ず役立つ～」

○公式サイト：開催内容についての詳細は、G空間EXPO公式サイトをご覧ください。

<https://www.g-expo.jp/>（QRコードからもアクセス可）



【EXPO公式サイト】

○同時開催（内閣官房地理空間情報活用推進室主催）

地理空間情報を活用したビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」の発表・表彰

開催内容についての詳細は、イチBizアワード公式サイトをご覧ください。

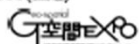
<https://www.g-idea.go.jp/2023/>（QRコードからもアクセス可）



【イチBizアワード公式サイト】

○添付資料 主なイベントの概要、キービジュアル（ポスター）、取材申込書

〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3
政策統括官付情報活用推進課 西澤・大山・高橋
03-5253-8353(直通)



〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-2
国土地理院企画部地理空間情報企画課 小島・飯田
03-5253-8139 (直通)



60

広報（Webサイト①）

■ Webサイト (URL= <http://www.g-expo.jp/>)



G空間EXPO2023は11月に開催決定

会場開催	オンライン開催
2023年11月7日（火）・8日（水）	2023年11月1日（水）～12月10日（日）
実地開催終了いたしました。 なお基調講演及びパネルディスカッションは引き続きアーカイブ配信によりご視聴いただけます。	オンライン会場はこちらから 地理空間情報フォーラム Geoアクティビティコンテスト 講演シンポジウム
プログラム・チラシはこちら プログラム (PDF) チラシ (PDF)	

基調講演・パネルディスカッション

11/7（火）13:00～14:00 会場：5階メインステージ	アーカイブ配信を見る
基調講演 地図を楽しむ ～災害時には必ず役立つ～ 地図大使・自衛・災害予報士 石原 良純 氏	
11/8（水）10:00～11:30 会場：5階メインステージ	アーカイブ配信を見る
パネルディスカッション 人流データの活用手法、ユースケースの創出 東京都庁 建設計画デザイン学部 都市工学科 准教授 コーディネーター 秋山 祐樹 氏 LocationMind株式会社 Product Manager/Pop Div.（エクスプローティブジョン） パネリスト 宮澤 聡 氏 株式会社GEOIRA 代表取締役社長兼CEO パネリスト 陣内 寛大 氏 国土交通省政策統括官付 情報技術政策課課長補佐 パネリスト 武林 雅衛 氏	

広報 (Webサイト②)

G空間EXPO2023
**地理空間情報
フォーラム**

日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を企業・団体・機関による動画や画像などを通して紹介いたします。各団体等のさまざまな取り組みや技術をぜひご覧ください。

G空間EXPO2023
**Geo
アクティビティ
コンテスト**

地理空間情報の活用に関する先進的な取組やアイデアについて、展示等を実施。来場者や参加者との交流を通じて、優良事例の育成や普及、新しいサービスの創出などを目的としたイベントです。

G空間EXPO2023
**講演
シンポジウム**

G空間社会への理解を深めるための講演・シンポジウムから、G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介など、関係各団体によりさまざまなプログラムを実施します。

ビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」



地理院地図パートナーネットワーク会議



[詳細はこちら](#)

[開催方針 \(PDF\)](#) [開催計画 \(PDF\)](#)

TOPICS

- 2023-11-01 オンライン配信が開幕しました。
- 2023-10-19 [石原良純氏 講演が決定しました。](#)
- 2023-10-19 [国土交通省において報道発表を行いました。](#)
- 2023-09-12 [シンポジウム参加団体 募集中です。](#)
- 2023-08-31 地理空間情報フォーラム2023の出展者募集を終了しました。
- 2023-05-31 Geoアクティビティコンテスト作品募集を終了しました。
- 2023-05-26 [地理空間情報フォーラム2023出展者募集中。](#)
- 2023-04-06 [Geoアクティビティコンテスト作品募集開始](#)しました。
- 2023-03-17 G空間EXPO2023開催計画等が決定しました! [「開催方針」](#) [「開催計画」](#)

アクセス

東京都立産業貿易センター浜松町館

東京都港区海岸1-7-1

Tel:03-3434-4242

(東京ポートシティ竹芝オフィスタワー)

- 新交通ゆりかもめ 竹芝駅徒歩2分
- JR・東京モノレール 浜松町駅徒歩5分
- 都営地下鉄浅草線・大江戸線
大門駅B2出口徒歩7分



SNS

最新情報はここから



G空間EXPO公式アカウント @g_expo

広報（Webサイト③）

イベント終了後（変更箇所赤枠）



会場開催は終了しました

オンライン開催は終了しました

2023年11月7日（火）・8日（水）

2023年11月1日（水）～12月10日（日）

[プログラム・チラシはこちら](#)
[プログラム \(PDF\)](#) [チラシ \(PDF\)](#)

G空間EXPO2023 地理空間情報 フォーラム

日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を企業・団体・機関による動画や画像などを通して紹介いたします。各団体等のさまざまな取り組みや技術をぜひご覧ください。

G空間EXPO2023 Geo アクティビティ コンテスト

地理空間情報の利活用に関する先進的な取組やアイデアについて、展示等を実施。来場者や参加者との交流を通じて、優良事例の育成や普及、新しいサービスの創出などを目的としたイベントです。

G空間EXPO2023 講演 シンポジウム

G空間社会への理解を深めるための講演・シンポジウムから、G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介など、関係各団体によりさまざまなプログラムを実施します。

ビジネスアイデアコンテスト「イチBizアワード」



地理院地図パートナーネットワーク会議



[詳細はこちら](#)
[開催方針 \(PDF\)](#) [開催計画 \(PDF\)](#)

TOPICS

- 2023-12-11 オンライン開催を終了しました。
- 2023-11-09 会場開催を終了しました。
- 2023-11-01 オンライン配信が開幕しました。
- 2023-10-19 [石原良純氏 講演が決定しました。](#)
- 2023-10-19 [国土交通省において報道発表を行いました。](#)
- 2023-09-12 [シンポジウム参加団体 募集中です。](#)
- 2023-08-31 地理空間情報フォーラム2023の出展者募集を終了しました。
- 2023-05-31 Geoアクティビティコンテスト作品募集を終了しました。
- 2023-05-26 [地理空間情報フォーラム2023出展者募集中。](#)
- 2023-04-06 [Geoアクティビティコンテスト作品募集開始](#)しました。
- 2023-03-17 G空間EXPO2023開催計画等が決定しました! [「開催方針」](#) [「開催計画」](#)

■ G空間EXPO Twitter



プロフィールを編集

G空間EXPO
@g_expo

「G空間EXPO」公式アカウントです。G空間EXPO2023は2023年11月7日・8日に東京都産業貿易センター浜松町館で開催されます。また11月1日～12月10日に公式サイトでのオンライン会場でも開催されます。サイトの更新情報やG空間にまつわることをつぶやきます。

g-expo.jp 2010年3月からTwitterを利用しています

43 フォロー中 1,348 フォロワー

ポスト 返信 ハイライト メディア いいね

固定

**G空間EXPO** @g_expo · 11月7日

G空間EXPO2023の1日目は無事に終了いたしました！
明日8日も10時より東京都産業貿易センター浜松町館5階にて開催いたします！
皆様のお越しをお待ちしております！
g-expo.jp
石原良純氏の基調講演のアーカイブはこちらから！
youtube.com/live/eP6pCUCQd...
#G空間EXPO



8 17 1.3万

■ 国土交通省公式Twitter



国土交通省
@MLIT_JAPAN

#地理空間情報 の活用の有効性や最新技術の動向に係る講演、展示、シンポジウムを行うことで最新の **#G空間** 情報技術の活用推進及び普及啓発を図るイベント「**#G空間 EXPO 2023**」を11月7日・8日に開催！
ビジネスアイデアコンテスト「**#イチ Biz アワード**」の発表・表彰も行います！

mlit.go.jp/report/press/t...

G空間 EXPO
地理空間情報科学で未来をつくる

いま、ここ、未来。
すべてはG空間の中に。

入場 2023 **11.7(火)・11.8(水)** 10:00~17:00 会場 東京都立産業貿易センター浜松町館

Geo アワードコンテスト
見に行こう!

1. 都市圏都市圏情報科学プロジェクトチーム
2. 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
3. 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
4. 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
5. 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
6. 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
7. 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
8. 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
9. 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
10. 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二

メインステージ&会議

11月7日(火) メインステージ

10:00~ オープニングセレモニー
11:00~ 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
12:00~ 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
13:00~ 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
14:00~ 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
15:00~ 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
16:00~ 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二
17:00~ 国土交通省 国土利用政策課 国土利用政策課長 山本 浩二

5Fフロアマップ

24 23
25
26
27
28
29
30

メインステージ
16 15 14 13 12 11

出口

[参考] アンケート結果

G空間EXPO2023 アンケート結果

11/1(水)～12/10(日)、オンライン開催サイト上の回答フォームにより実施。11/7(火)・8(水)、会場でQRコードから同フォームに誘導し回答いただいた分も同時集計[回答数:83]。

【質問項目】1.年代(選択式)

2.職業(〃)

3.居住地(〃)

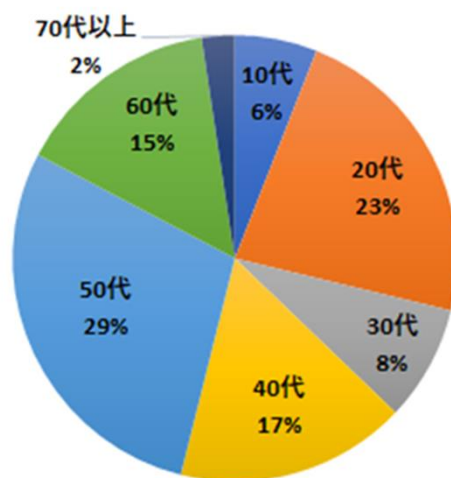
4.G空間EXPOを何で知ったか(〃)

5.来場目的(自由記述)

6.意見・感想(〃)

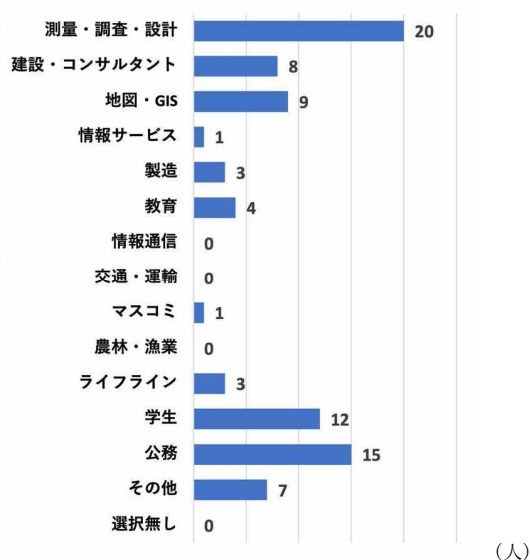
1.年代

年代	人数	割合
10代	5	6%
20代	19	23%
30代	7	8%
40代	14	17%
50代	24	29%
60代	12	15%
70代以上	2	2%
合計	83	100%



2.職業

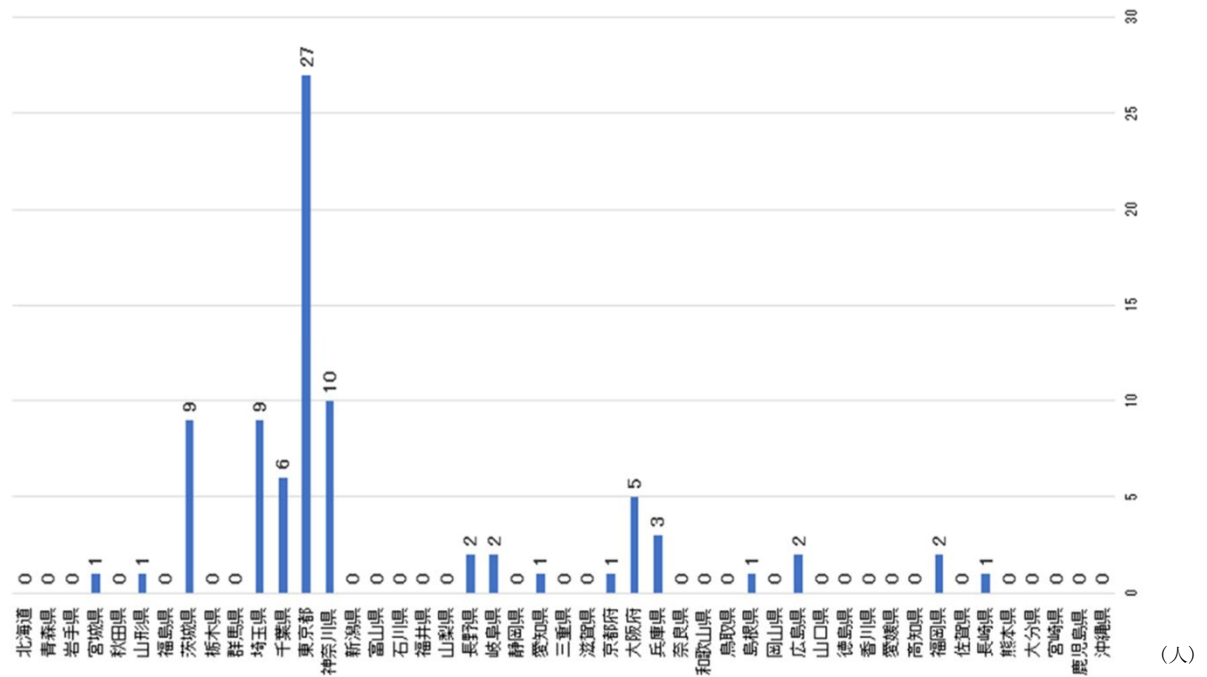
職業	人数	割合
測量・調査・設計	20	24%
建設・コンサルタント	8	10%
地図・GIS	9	11%
情報サービス	1	1%
製造	3	4%
教育	4	5%
情報通信	0	0%
交通・運輸	0	0%
マスコミ	1	1%
農林・漁業	0	0%
ライフライン	3	4%
学生	12	14%
公務	15	18%
その他	7	8%
選択無し	0	0%
合計	83	100%



* 上記「その他」で、記述のあったもの：「土地家屋調査士」(回答数2),「イラストレーター・作図屋」,「ソフトウェア販売」,「研究」,「商社」,「測量学の非常勤講師」(以上各1)

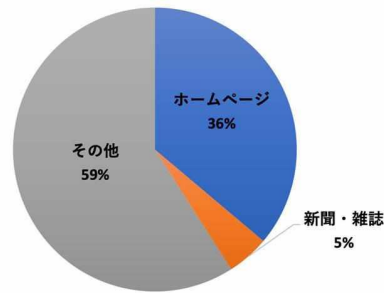
3.居住地

居住地	人数	割合	居住地	人数	割合	居住地	人数	割合
北海道	0	0.0%	福井県	0	0.0%	山口県	0	0.0%
青森県	0	0.0%	山梨県	0	0.0%	徳島県	0	0.0%
岩手県	0	0.0%	長野県	2	2.4%	香川県	0	0.0%
宮城県	1	1.2%	岐阜県	2	2.4%	愛媛県	0	0.0%
秋田県	0	0.0%	静岡県	0	0.0%	高知県	0	0.0%
山形県	1	1.2%	愛知県	1	1.2%	福岡県	2	2.4%
福島県	0	0.0%	三重県	0	0.0%	佐賀県	0	0.0%
茨城県	9	10.8%	滋賀県	0	0.0%	長崎県	1	1.2%
栃木県	0	0.0%	京都府	1	1.2%	熊本県	0	0.0%
群馬県	0	0.0%	大阪府	5	6.0%	大分県	0	0.0%
埼玉県	9	10.8%	兵庫県	3	3.6%	宮崎県	0	0.0%
千葉県	6	7.2%	奈良県	0	0.0%	鹿児島県	0	0.0%
東京都	27	33%	和歌山県	0	0.0%	沖縄県	0	0.0%
神奈川県	10	12%	鳥取県	0	0.0%	記入無し	0	0.0%
新潟県	0	0.0%	島根県	1	1.2%	合計	83	100.00%
富山県	0	0.0%	岡山県	0	0.0%			
石川県	0	0.0%	広島県	2	2.4%			



4.G空間EXPOを何で知ったか

媒体	人数	割合
ホームページ	30	36%
新聞・雑誌	4	5%
その他	49	59%
選択無し	0	0%
合計	83	



(上記「その他」で、記述のあったもの)

その他	人数	その他	人数	その他	人数
職場	36	Google アラート	1	mieruneさんからのメールお知らせ	1
X(旧Twitter)	1	学会からの連絡	1	学校	1
企業からのメール	1	参加団体からメールにて出展のお知らせを受けた	1	授業中に薦められた	1
授業内	1	出展企業MIERUNEからのメール	1	測量	1
測量協会からの案内メール	1	測量協会等よりの案内	1	合計	49

5.来場目的

No	来場の目的は何ですか？	回答数
1	情報収集	6
2	情報収集、ご挨拶	1
3	情報収集のため	1
4	「次期光学ミッションの方向性について」の視聴	1
5	MIERUNEソフトウェアの見学、ご挨拶 その他ソフトウェアの見学、情報収集	1
6	いろいろな取り組みを理解したいため。	1
7	オンラインで視聴させていただきました	1
8	これから地震防災分野の研究活動をするにあたって、測量技術やGISの活用を見ることで、自身の研究を進める際に活用や参考にできると考えたため。	1
9	トレンドを得て仕事に生かすとともに、CPDポイントの獲得も行うため。	1
10	まだ大学1年生であるが地理情報に興味があったため。	1
11	技術力向上のため本講を受講しました。	1
12	興味を引くGeoアクティビティコンテストのタイトルを見たため。また、空間情報利活用 に関する事例などの情報収集のため。	1
13	業界情報収集	1
14	業務の情報収集、およびご挨拶のため	1
15	近くで他の用事があり、立ち寄る時間があったから。	1
16	研修 地理空間情報に関する最近の動向を知るため	1
17	研修のため。	1
18	後学	1

19	最近の地球観測衛星の状況を知るため。	1
20	最新の地理空間情報の動向を知りたかったため	1
21	最新技術の動向を知ること	1
22	最新情報を知るため	1
23	仕事でお世話になっている人への挨拶と情報収集。	1
24	次年度に向けて、研究成果発表の場の広報として。	1
25	自身の知識と技術をよりさらに学ぶため	1
26	出展企業との交流	1
27	新技術の情報収集	1
28	新秘術の発掘と現行技術の確認	1
29	人流のパネルディスカッションをききたい(配信してるなら、それを選択します)	1
30	数年ぶりに対面開催なので参加しました	1
31	測量CPD取得	1
32	測量関連の最新情報の収集	1
33	対面で現在の動向を知るため	1
34	地下ライフラインの3D化について、業界動向を確認するため	1
35	地下空間での3D技術の展開を確認したい	1
36	地理の最新技術について知るため	1
37	地理空間情報の業界を学ぶため	1
38	地理空間情報関連の最新トレンドを把握するため	1
39	展示と講演	1
40	本年のG空間技術のキャッチアップ	1
41	面白い情報探し	1

6.意見・感想

No	意見・感想
1	アクセスがとても良くなりありがたいです。
2	アクティビティコンテストの作品がどれも興味深かったです。
3	いろんなことを知ることができて、楽しかったです。ただ昼頃になると中だるみする感じがあるなと 思いました。
4	オンライン会場に入れません
5	スペースが昔に比べ小さくなったと聞いたが、初めての来場だったため十分楽しめた。
6	テープカットセレモニーは古風であり、未来志向の本イベントには不要と感じました。
7	どのブースも閉塞感がなく入りやすい雰囲気があった。
8	みちびきウェビナー ～みちびき利活用最前線 in G空間EXPO2023～ 内閣府宇宙開発戦略推進事務局／準天頂衛星システムサービス株式会社 の終了後アーカイブ公開を教えてください。

9	みちびきウェビナー ～みちびき利活用最前線 in G空間EXPO2023～の終了後アーカイブ公開はまだ でしょうか。見れる場所があれば教えてください。
10	愛媛大学付属高校1年生が測量技術を理解していることに感動しました。
11	開催時期を学会と被らない6月にしてほしい
12	基調講演が大変面白かった。企画ありがとうございました。ただ、席を増やしたためか講演の途中から息苦しく気分が悪くなった。会場の広さに制限があるのは理解しているが、次回以降工夫していただきたい。
13	興味深いデータがあった
14	空間情報に関わる事業者の中でも、このようなイベントに参加するメンバーは、ある程度決まっていて一定のコミュニティ化している中、展示ブースでは新たな顔ぶれも参画して、コミュニティの継承がうまく行っている様で、かといって、学会の様な堅苦しさもなく、コミュニティの規模感がちょうどいいのではないかと感じられた。
15	現地実測作業の測量器機も見たい。
16	高校生のレベルが高いと感じた。言い換えると、GISの技術が進んで特別なスキルを要求されなくなったので、高校生の理解程度でも高度な分析にトライできる現状を確認した。これは、新しい視点で既存の課題への取り組みの可能性が拡大すると思えました。以上
17	今後もしよろしく願い致します
18	最新の情報を得ることができて有意義であった。
19	昨日の石原良純氏のご講演は非常に興味を持って拝聴させていただきました。世間で著名な方が地図について発信されることで、一般の方も地図に興味を持てただけなら業界の人材確保にもつながると思います。また講演の仕方(つかみの長嶋一茂氏みたいな)も人前で話すテクニックを見ることができました。今後もメディアで著名で地図好き(鉄道、国道、建物等ジャンルは多くあると思います)な方々のご講演を期待いたします。
20	昨年と比較し、展示が地味になった印象があります。
21	参加時間、方法がよくわからない
22	参考になりました。gisのデータを扱っている企業等、もっとブースが増えることを願ってます。
23	思っていたより参加者が多かった。
24	初回から参加していますが、1年間の技術の発展がわかりとても良いので継続的に実施して欲しいです。常連の官公庁さんも年によりテーマや展示方法が異なり、変化を見るのも楽しいです。また、新たに出展されるベンチャー企業さんらも加わるのでトレンド変化もわかります。今年は人流が一つテーマだったと思いますが、G空間情報が生活に溶け込んでいるからこそ、やはり携帯電話キャリア3社や大手メーカーさんにも出展してもらおうとか盛り上がってほしいです。CETECHなどのテック系展示会に負けず劣らず重要なイベントと認識しているので、応援します！
25	石原良純氏講演の天気と地図の関係については大変参考になりました。これからは空に想いを馳せます。また、これまで通り旅行先の地形、起伏に興味を持ち続けたいと思いました。
26	大小関わらずより多くの企業・団体のブースがあるとよいと思う。
27	大変に勉強になりました。今後も実施いただきますようよろしくお願いいたします。
28	大変勉強になりました。有り難うございました。
29	地球観測衛星の現状と将来について参考となった。

30	展示で誰もいない箇所が少し残念でした。 気になるものがあっても、内容がわからないものがありました。
31	非常に有意義な会合でした。
32	毎年拝聴させていただいております。次年度も期待しております。
33	様々な取り組みがあり興味深く拝見しました。 政府系の展示が多いのが意外でした。体験コーナーも あり参考になりました。

[参考]開催実績

開催実績

名 称		会 期	会 場	来場数等
1	G空間EXPO	2010(H22) 9/19日～21火	パシフィコ横浜 [使用面積10,000㎡]	36,819人
2	G空間EXPO2012	2012(H24) 6/21木～23土	パシフィコ横浜 [6,700㎡]	18,143人
3	G空間EXPO2013	2013(H25) 11/14木～16土	日本科学未来館(東京都江東区) [使用面積約2,000㎡] ※1	17,584人
4	G空間EXPO2014	2014(H26) 11/13木～15土	日本科学未来館	20,311人
5	G空間EXPO2015	2015(H27) 11/26木～28土	日本科学未来館	18,856人
6	G空間EXPO2016	2016(H28) 11/24木～26土	日本科学未来館	19,138人
	G空間EXPO2016in仙台	" 10/5水	仙台国際センター(仙台市青葉区)	128人
	G空間EXPO 2016in大阪	" 10/24月～25火	ATCホール(大阪市住之江区)	150人
7	G空間EXPO2017	2017(H29) 10/12木～14土	日本科学未来館	20,450人
	北陸G空間フォーラムin新潟	" 9/20水	朱鷺メッセ(新潟市中央区)	94人
	九州G空間フォーラムin鹿児島	" 11/8水～9木	かごしま県民交流センター(鹿児島市)	205人
8	G空間EXPO2018	2018(H30) 11/15木～17土	日本科学未来館	10,623人※2
	北海道G空間フォーラムin札幌	" 7/18水～22土	かでの2・7ほか(札幌市)	836人
	中国G空間フォーラムin広島	" 9/13木～14金	JMSアステールプラザ(広島市)	350人
9	G空間EXPO2019	2019(R元) 11/28木～30土	日本科学未来館	15,513人
	中部地理空間フォーラムin岐阜	" 10/11金 ※3	ぎふメディアコスモスほか(岐阜市)	143人
	四国地理空間フォーラムin松山	" 11/8金～9土	松山市総合コミュニティセンター(松山市)	175人
10	G空間EXPO2020	オンライン開催 ※4 2020(R2)11/24火～12/27日	—	(アクセス数) 58,306
11	G空間EXPO2021	実地開催 2021(R3) 12/7火～8水	東京都立産業貿易センター浜松町館 (東京都港区) [使用面積約1,534㎡]	(来場数) 1,022人
		オンライン開催 2021(R3) 12/1水～26日	—	(アクセス数) 51,330
12	G空間EXPO2022	実地開催 2022(R4) 12/6火～7水	東京都立産業貿易センター浜松町館	(来場数) 1,424人
		オンライン開催 2022(R4) 12/1木～25日	—	(アクセス数) 45,493
13	G空間EXPO2023	実地開催 2023(R5) 11/7火～8水	東京都立産業貿易センター浜松町館	(来場数) 1,701人
		オンライン開催 2023(R5) 11/1水～12/10日	—	(アクセス数) 37,398

※1 日本科学未来館における使用面積はこの翌年以降も同じ。

※2 来場者数カウント方法をこの年から精緻化した。

※3 台風接近のため、予定されていた第2日(10/12土)の開催を中止した。

※4 感染症拡大防止の観点から実地開催を中止しオンラインにより実施。翌年度(2021)は実地、オンラインの併用で開催した。

G空間EXPO2023開催報告書

令和6年2月22日

G空間EXPO運営協議会事務局

